

1:25th

- ★ INDIVIDUAL INTERLOCKING CATERPILLAR TRACKS
- ★ FAITHFULLY REPRODUCED INTERIOR DETAILS
- ★ MOVABLE SUSPENSION
- ★ FIVE REALISTIC TANK CREW FIGURES



BRITISH ARMY

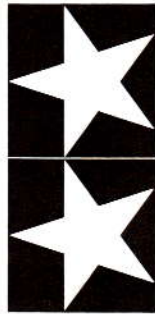
IDENTICAL
1/25 SCALE SERIES NO.14

CENTURION

BRITISH ARMY
50ton MEDIUM TANK
CENTURION Mk III



ITEM 30614



CENTURION MKIII

センチュリオンの誕生

1916年、第1次大戦中のソンム会戦で世界初の戦車マークIを登場させたイギリスは、その後も、戦車の開発、戦術、用法の面で世界各国を大きくリードしていたかに思われていた。この当時、イギリスは第1次大戦の経験から、もっぱら歩兵支援を目的として、速力火力を犠牲にしても防禦力に重点を置いた歩兵戦車と、防禦力を犠牲にしても、軽快なスピードを持たせて機動性に重点をおいたクルーザータンク（巡航戦車）の2種に戦車を分けて用いていた。しかし、いざ第2次大戦の火ふたが切られ、ドイツ戦車部隊と砲火を交えた時、イギリスのこの戦車に対する考え方はすでに時代遅れのものとなっていたことが明白となったのである。特に北アフリカの戦いの経験は、イギリスの戦車政策に大きな影響を与えた。

戦車の用法はまったく一変したのであり、新しい戦車用法に見合った新しい戦車を開発する必要が生じたのである。

これらの経験から、イギリス陸軍省は、それまでの戦車の開発に関する政策を全面的に改め、1942年9月、「万能」戦車の車台の開発を始めた。これは、それまで数種の戦車によって行われてきた任務を、1つの戦車で行うというものであり、イギリスが、万能の「主力戦車」という新しい思想のもとに戦車開発を行った最初でもあった。これが後にセンチュリオンを生み出す構想の母胎となったのである。

この新しい戦車は、A41と命名され、A.E.C.社に開発が命じられた。開発に課せられた条件は次のようなものであった。

まず、最大口径の戦車砲（当時のイギリスでは17ポンド砲）を搭載し、前面装甲は、傾斜装甲として耐弾能力を向上させると共に、ドイツ88mm砲に十分耐え得る装甲を施すこと。また地雷に対しても十分な抵抗力が要求された。さらに路上速度よりも路外での機動性が重視され、少なくともコメット戦車と同程度の路外機動性が要求されたのである。1944年5月、A.E.C.によってA41戦車のモックアップが完成した。従来イギリスの巡航戦車と大きく異なるところはサスペンションであった。それまでのイギリス巡航戦車

に多く用いられていたクリスティー型サスペンションにかわり、片側6個の中径転輪を2個1組ずつ水平コイルスプリングで懸架するホルストマン・ボギー・サスペンションが用いられた。これは主として著しく増加した重量のためであった。主砲は17ポンド多用途砲を装備、車体前面はゆるやかな傾斜がつけられ、防禦力を高めていた。また車体底部は舟底型となっており、地雷の爆発にも十分な抵抗力がもたされていた。予想された戦闘時の重量は約42トン。この結果、17ポンド砲と77mm砲の2種の主砲、および副武装としてボルステンキャノンとベサ機関銃の各種の組み合わせを装備した20台の実験型が発注された。

1945年5月、この20輛のうちの6輛がヨーロッパ大陸に上陸、ドイツの戦場に向った。しかし、このセンチュリオンのプロトタイプ、A41がドイツ戦車と砲火を交えるには、もはや遅すぎたのである。すでにヒトラーは4月30日に自殺し、5月7日、ドイツは無条件降服を受け入れ、第3帝国は完全に消滅したのである。

やがて3ヶ月後の8月15日、日本も無条件降服を受け入れ、第2次大戦は終わった。

しかし、平和は長続きしなかった。第2次大戦の結果、ヨーロッパ諸国は経済的に窮乏しかわって戦後世界の主導権を握ったのはアメリカとソビエトであった。大戦後から6年、この米、ソ両大国の冷戦による東西対立の中で1950年6月、朝鮮半島で再び戦争の火の手が上がり、この朝鮮戦争でセンチュリオンはその真価を世界に広めたのである。

朝鮮戦争とセンチュリオン Mk3
ところで、A41の開発がまだ実際に完了しない段階で、新しい改良型が既に計画されていた。この計画は1945年1月に承認され、改良型はA41Aと呼ばれた。A41の車体装甲をさらに増強し、A41の組立砲塔に代えてA41Aでは一体铸造製とされた。コマンドースキューボラは全周の視界が得られるように改良され、副武装としてベサ7.92mm機関銃が主砲と同軸に装備された。さらに照準装置に改良が加えられ、主砲の射撃精度を向上させるために上下方向と水平方向の両方にジャイロ安定装置が備えられた。砲塔後部にはエスケープハッチを持ち、また砲塔前部の両側に発煙弾発



射筒が加えられた。このA41AがセンチュリオンマークIIと命名され、先のA41がセンチュリオンマークIと呼ばれて、マークIは主に訓練用として、マークIIは最初の実用型として、それぞれ100輛ずつが生産されることになった。そしてこのマークIIの後期生産型がさらに火力を増強され、センチュリオンマークIIIとなるのである。

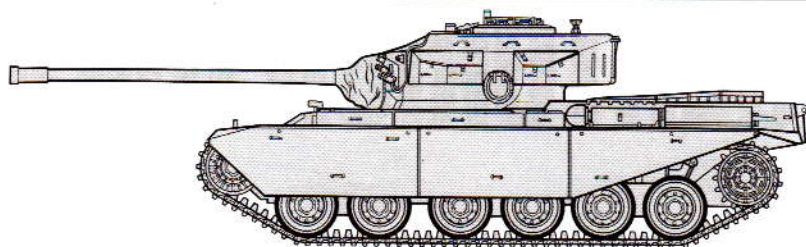
1948年、センチュリオンマークIIIが登場した。主砲には17ポンド砲に代って実用化されたばかりの20ポンド砲——83.4mm砲が搭載された。他に副武装として7.92mmベサ機関銃が主砲と同軸にマウントされる。エンジンはセンチュリオンマークIおよびマークIIと同じロールスロイス・メトロ4 B型水冷V12気筒OHVで排気量は27,000cc。各気筒のバンクの角度は60度、2基のツインチョークアップドラフトキャブレターを持ち、潤滑はドライサンプ方式が用いられる。プラグは1気筒当り2個あり、最高出力は650b.h.p./2550rpm、燃料はガソリンを使う。このメトロ4 B型エンジンは、スピットファイア戦闘機などに搭載されて有名なロールスロイス・マーリン航空機用エンジンから発展したもので、初期のものはコメットやクロムウェル戦車に使われて良好な成績を残していた。クラッチはボグ&ベック製の乾式多板、トランスミッションは前進5段、後退2段である。最高速度は35km/hといささか低スピードであるが、これは路外での機動性を重視し、最高速度を押えたためである。車体全長は約7.55m、車体内のレイアウトは、前部が操縦室と弾薬庫、中央部が戦闘室、後部が2つに分かれてエンジンとトランスミッションがおかれる。戦車長は砲塔内の右後部に位置し、その前下部に砲手が、20ポンド砲をはさんで砲手の左側に無線手が位置する。

重量は、プロトタイプは40トンからマークIの47トン、マークIIIでは50トンに増加している。これは、もちろん火力、装甲などの増強のためであるが、そのうちわけは大体のところ44%が装甲、11%が火器及び弾薬、5%がエンジン関係、30%がトランスミッションおよび走行装置関係、残りの10%が乗員およびその荷物などであり、この10%が戦車の価値を決定するのである。

1949年～50年の間にセンチュリオンマークIIIは量産に入り、マークIIの大部分もマークIIIの仕様で改造された。マークIIIの量産が盛んに行われている頃、1950年6月25日、朝鮮半島の38度線上で南北両朝鮮軍の武力衝突が勃発した。もともと第2次大戦後の朝鮮は、38度線を境に北半分はソビエトが、南半分は



協力 イギリス・ボーピントン博物館
アメリカ・パットンミュージアム
RICHARD KOHNSTAM LTD.



アメリカが分割占領していた。その後国連が全朝鮮の選挙による朝鮮問題の解決を決議し、国連臨時朝鮮委員会が実際の任務を遂行しようとしたが失敗。結局1948年8月には南朝鮮には大韓民国が、9月には北朝鮮に朝鮮民主主義人民共和国が発足した。この事態にソビエト軍は1948年末に、アメリカ軍は1949年6月にそれぞれ撤兵を行ったのであった。1950年6月25日の武力衝突については、いずれが侵攻の意図を持ち、実行に移したかは明らかになっていない。この38度線以上の戦争勃発と同時にアメリカ政府はただちに武力介入を決定、さらに国連の安保理事會に提訴して北朝鮮軍の行動を平和の侵犯と侵略行為であるとの決議を成立させ、アメリカを中心とした16ヶ国から成る国連軍の派兵を実現した。戦争の初期は北朝鮮軍が優位に立ち、8月には釜山、大邱地区をのぞく南鮮全土が北朝鮮軍の制圧下におかれた。この事態は9月15日の国連軍の仁川上陸作戦の成功で一変し、その後は国連軍が反対に38度線を越え、鴨緑江岸に到達する形勢となった。これに対し、中国人民義勇軍が「抗米援朝」のスローガンのもとに出動北朝鮮軍を援助、戦局の主導権は再び北鮮、中国義勇軍が握り、1951年1月には南朝鮮の首都京城は再び北鮮側の手に陥ちた。その後国連軍側は反攻に転じて3月には京城を奪回、戦局はしだいに38度線付近で膠着状態にはいる。そして1951年7月には初めは開城、続いて板門店で休戦協議が開かれ、1953年7月27日、休戦協定が成立したのである。以上が朝鮮戦争の概要であるが、センチュリオンマークIIIも国連軍の一員となったイギリス軍のもとで活躍し、初陣ながらも優秀さを世界に認めさせたのである。その活躍は数多くのエピソードを残している。

1951年1月3日、センチュリオンマークIIIはイギリス第8アイルランド騎兵隊に配備され初めて朝鮮の地に上陸した。そして4月25日名将オーマッドの指揮のもと、中国人民義勇軍の大軍を前にノーザンバーランド歩兵部隊、ウルスター歩兵部隊の救援に活躍した。この戦闘で最も目立った活躍を見せたのは、陸軍少佐ヘンリー・フスが率いたCスコードロンであった。救援に駆けつけた第8アイルランド騎兵隊のセンチュリオンマークIIIは、たち



朝鮮でのMk 3

まちのうちに数十万の中国歩兵の大軍に取り巻かれた。彼らは戦車の上によじ登り、ひしめき合い、砲塔の屋根を、車体を、小銃でガンガンとたたき始めた。彼らの攻撃武器は粘着弾であったが、戦車に大きな被害を与えることはできなかった。結局、部隊のセンチュリオンは、互いに味方の戦車を銃撃することによって、あるいは高速で凹凸のはげしい路面を走り、また家ややぶの中に突入することで、車体に取りついた中国歩兵を払い落とし、ウルスター、ノーザンバーランドの両歩兵部隊の救援の道をつけたのである。しかし、この日の戦闘はまだそれだけではなかった。この救援を終えて再編成されたCスコードロンは、フス少佐の直接指揮によってベルギー大隊の撤退を援助することを命じられた。それは実に困難を極める任務であった。大隊の兵士の多くは、中国義勇軍の猛攻のために傷つき、飢え、絶望的になっていた。フス少佐、およびリゼー大尉の戦車をのぞき、Cスコードロンのすべての戦車は、ベルギー大隊の傷ついた兵士を満載した。そして彼らを「安全」に後送しなければならなかった。ベル

ギー大隊の残りの兵士は、フス少佐、リゼー大尉の戦車に護衛されて徒歩で撤退をはじめた。1mまた1m、中国人民義勇軍の中を、たった2台の戦車に護られてじりじりと撤退が進められた。2台の戦車は、敵を100m、または50m以内には近づけることなく、撤退部隊を護衛しきった。落伍者は、ほとんど無かった。フス少佐が、中国人民義勇軍に向けて放った最後の一発の砲声は、この撤退の成功を知らせると共に、イムジン河の戦いの終了を告げたのである。この苛酷な戦闘の様子を記録した一冊の本「Our Men In Korea」の中で著者のEric LinklaterはCスコードロンの活躍を次のように語っている。「偉大なセンチュリオンと共に、勇気と技術の限りを尽して撤退の成功のために彼らは戦った。彼らの力強い援助と自己犠牲の精神は、多くの傷つき、飢え、疲れはてた兵士を地獄から救い出した」。

この朝鮮戦争で示されたセンチュリオンの優秀性は多くの国の賞賛の的となった。中国人民義勇軍のT-34/85やSU-100は、センチュリオンの敵ではなかった。同じ国連軍として戦闘に参加したアメリカのM46よりもセンチュリオンは数段優るとの評価を受けた。センチュリオンは、イギリス兵はもとより、多くの国連軍兵士から、他のいかなる戦車よりも深い信頼を寄せられたのである。

その後のセンチュリオン

1949年、センチュリオンに95mm曲射砲を装備したセンチュリオンマークIVと呼ばれる歩兵の接近援護型を開発する計画が立てられたが、結局、中止された。続いたマークIIIの発展型であるマークVが登場する。(この時期からセンチュリオンの形式名はアラビア数字に変更した。従ってマーク5となる)。大きな変更点は、ベサ機銃に変えてNATO共通のプロローニング7.62mm機銃を採用したことである。走行装置、砲塔などにも多少の改造が加えられた。マーク5は1952年から生産に入り、それまでのマーク3もマーク5の仕様に合わせて改造された。ところで、初期のセンチュリオンに共通して見られた大きな欠点が1つあった。それは燃料タンクの容量が非常に少なく、それによって行動半径が50km内外に限られて



CENTURION MKIII

しまうということであった。このためマーク3では円筒形の燃料タンクを車体後部に横向きに取りつけていたが、このタンクが砲火に弱いことは明らかであった。さらにマーク5では、単輪トレーラーに200ガロンの装甲燃料タンクを乗せて索引するようにされ、航続距離は大幅に伸びた。しかし、燃料の問題が最終的に解決されたのは、これ以後の型であった。すなわち特別な装甲燃料タンクを車体後部に横向きに取り付けたのである。これによって車体全長がいくらか大きくなった。また20ポンド砲の改良も引続き行われ、砲身中央部に排煙器が設けられている。この2つの砲身は互換性があるため、実際には両方がマーク5に見られた。

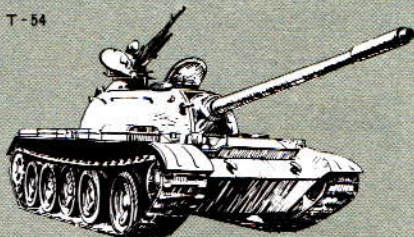
センチュリオンは、この後マーク13にまで発展していく。大きく変わったのはマーク6からで、この型から20ポンド砲に代えて主砲にL7A1・105mm砲が搭載された。この105mm砲は西ドイツのレオバルド、アメリカのM60などにも用いられているもので安定した性能を持つものである。ただマーク7、マーク8は20ポンド砲のまま生産されたが、後に105mm砲に換装された。マーク7では後部のトランスミッションコンパートメントに

燃料タンクが増設されて航続距離が伸びている。マーク8ではコマンダーハッチが両向きとなった。マーク5/1、7/1、8/1はそれぞれマーク5、7、8を改装したものである。つづいてこれに105mm砲を搭載したものがマーク5/2、7/2、8/2と呼ばれる。マーク6、

M46



T-54



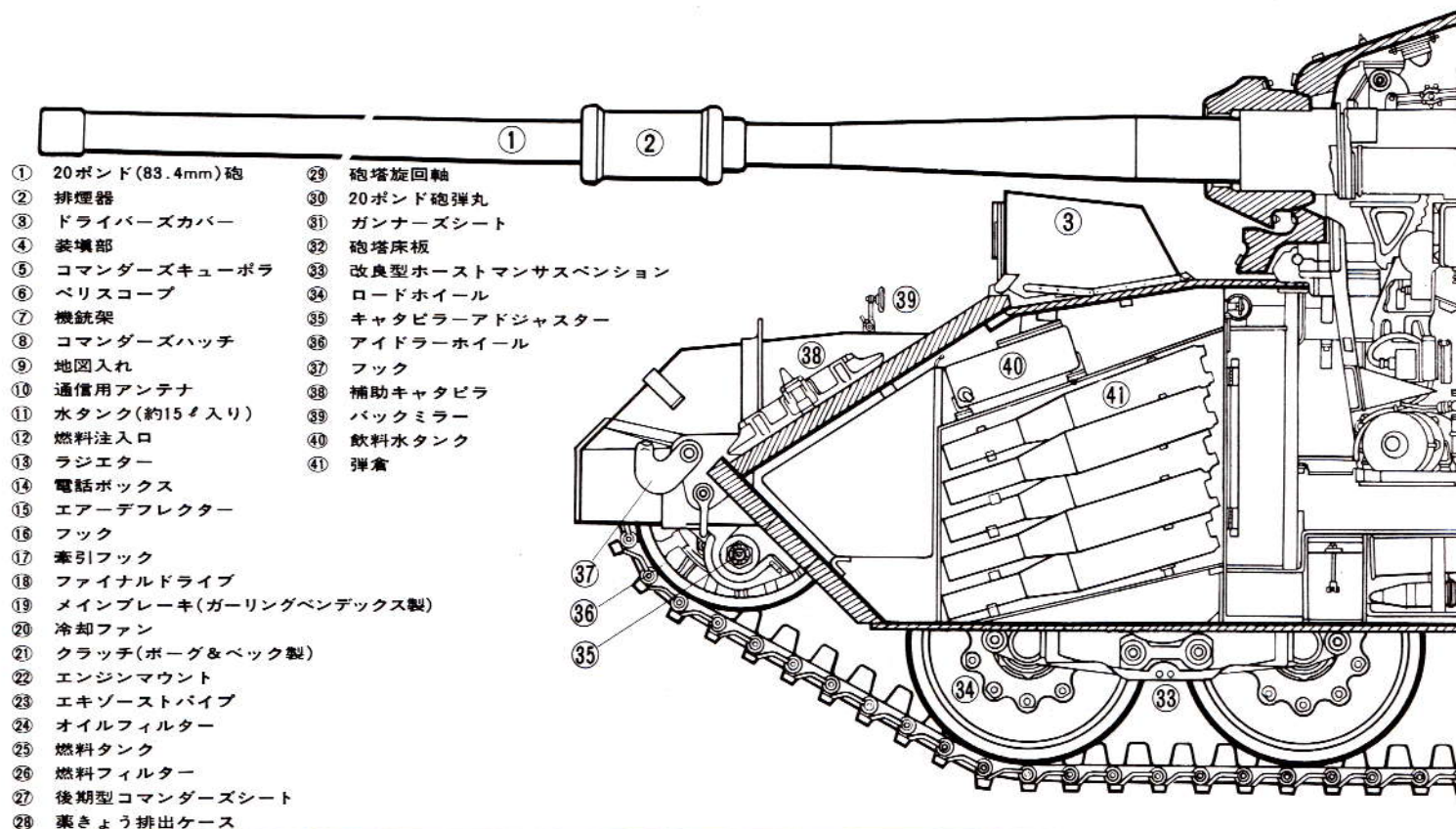
9、10はもとのマーク5、7、8に105mm砲を搭載、装甲を強化したものである。さらにこれらに赤外線投射装置がつけられたものがマーク6/1、9/1、10/1と呼ばれ、また主砲と同軸に機銃を装備したものがマーク6/2、9/2、10/2と呼ばれる。マーク11、12、13は最初から赤外線投射装置と距離測定用の機銃を装備している。すなわちマーク6、9、10の改良型に準じたものである。

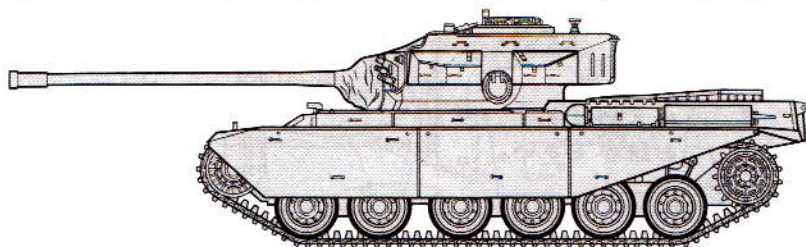
センチュリオンが主力戦車の座につくと共に古い型の特殊目的車輛に代えて、センチュリオンをベースとした新しい特殊目的車輛を開発する計画が立てられた。それまでの特殊目的車輛は第2次大戦中のチャーチル、クロムウェル、シャーマンをベースとしたもので、これはセンチュリオンベースのものに変えることは、保守の標準化、部品の供給、乗員の訓練などの面で明らかに便利なことであった。

実戦中のセンチュリオン

センチュリオンを最初に実戦に用いたのは、1951年の朝鮮戦争における第8アイルランド騎兵隊であった。その後第5イニスクリング近衛竜騎兵連隊および第1戦車連隊にも朝鮮で使用された。1956年のスエズ動乱においては第6戦車連隊に配備されたセンチュリオン

センチュリオン内部構造図(センチュリオンマーク5)

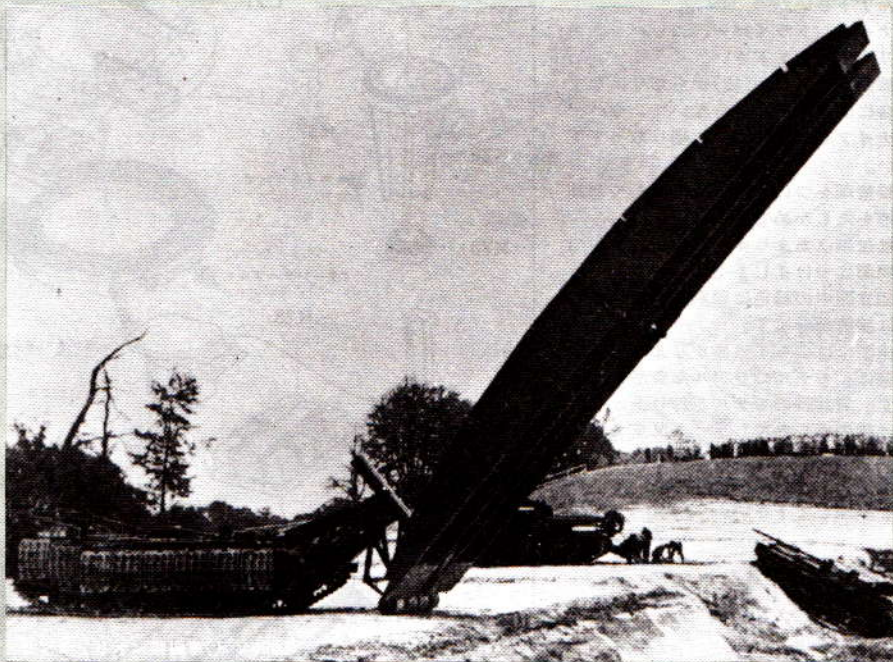




が活躍している。

センチュリオンは、イギリスだけでなく、その優れた性能を認められ、多くの国々に装備された。インド、パキスタン紛争では、インド軍のセンチュリオンは、パキスタンのアメリカ製M47およびM48を再三にわたって撃破した。またイスラエルの6日間戦争においては、T54などのソビエト製戦車を驚くほど長距離から撃破している。

1969年、新しいチーフテンが主力戦車としてイギリス戦車連隊に装備されはじめた。プロトタイプ完成から、チーフテンに主力戦車の座をゆずるまでの20数年の間、センチュリオンの火力は2倍近くになり、より多くの弾薬を持ち、その行動半径は2倍以上に拡大された。これはオリジナル設計の優秀さと、開発チームの不断の努力を無言のうちに示していると言えるだろう。なお、イギリス以外でセンチュリオンをかって使用した、また現役で使用している国々は次の通りである。オーストラリア、カナダ、デンマーク、エジプト、インド、イラク、イスラエル、オランダ、南アフリカ連邦、スウェーデン、スイス。



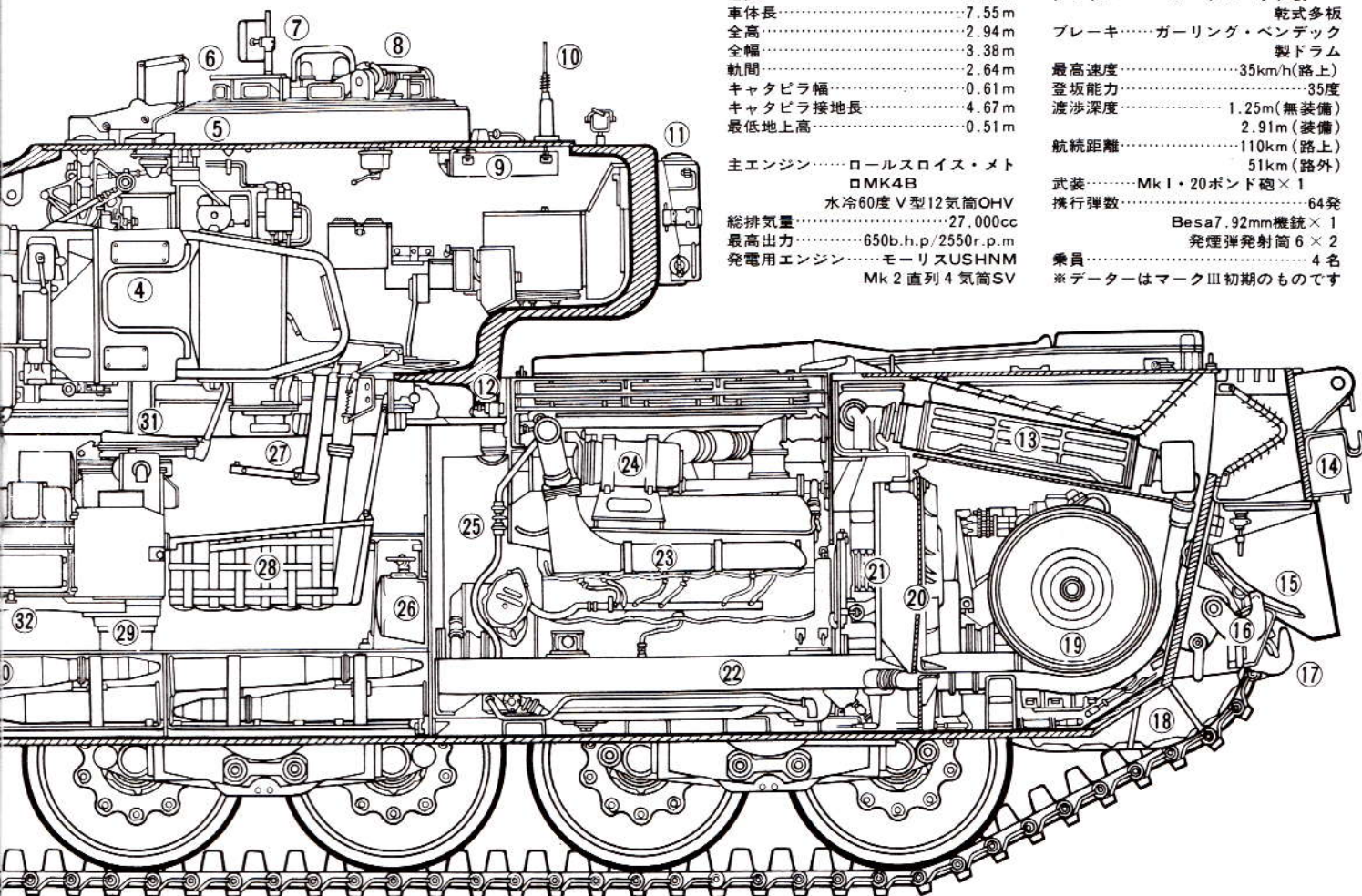
〈センチュリオンMkIIIデータ〉

全長	9.73 m
車体長	7.55 m
全高	2.94 m
全幅	3.38 m
軌間	2.64 m
キャタピラ幅	0.61 m
キャタピラ接地長	4.67 m
最低地上高	0.51 m

主エンジン	ロールスロイス・メトロMK4B 水冷60度V型12気筒OHV
総排気量	27,000cc
最高出力	650b.h.p./2550r.p.m
発電用エンジン	モーリスUSHNM Mk 2 直列4気筒SV

変速機	前進5段・後退2段
クラッチ	ボグ&ベッグ製 乾式多板
ブレーキ	ガーリング・ベンデック 製ドラム
最高速度	35km/h(路上)
登坂能力	35度
渡渉深度	1.25m(無装備) 2.91m(装備)
航続距離	110km(路上) 51km(路外)
武装	Mk I・20ポンド砲×1
携行弾数	64発 Besaz.92mm機銃×1 発煙弾発射筒6×2
乗員	4名

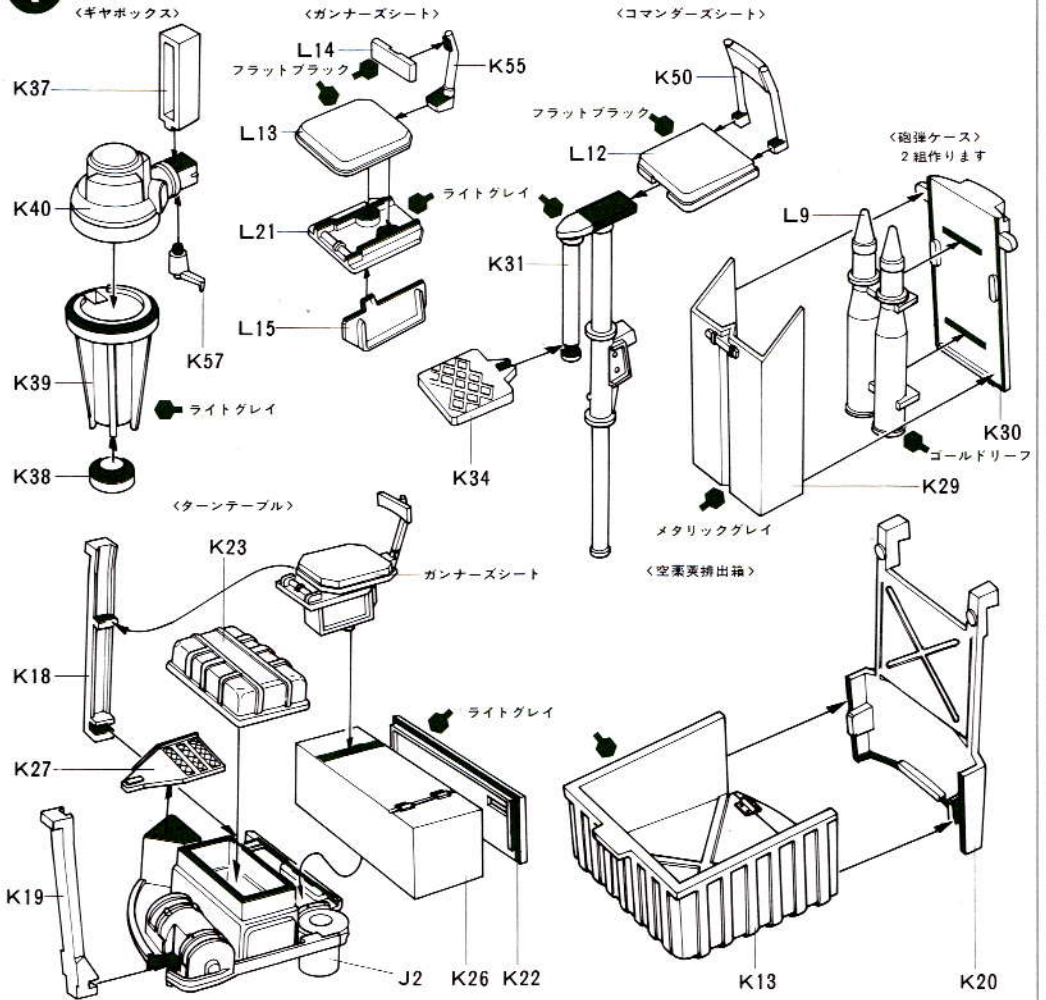
※データはマークIII初期のものです





★キットを組立てる前に必ず説明文を読んで下さい。
 ★ナイフ、ドライバー、ニッパー、ヤスリ等用意して下さい。
 ★部品をランナー(枝)から切りはなす場合には手でもぎとらないでニッパーやナイフ等でいいに切り取って下さい。
 ★接着剤をつける前に仮に組んで部品の形をたしかめて下さい。
 ★接着剤はあまり多くつけずに少しづつ両面につけましょう。
 ★組立図中の緑色に印刷されているのは接着部分です。
 ★模型には必ず塗装をしましょう。塗装は、モデルにリアルな実感を与えます。君だけのモデルを作り上げるのも塗装の楽しみでしょう。又デカールをはがれにくくするのに役に立ちます。
 ★使用する塗料はP17のペインティングを参照して下さい。

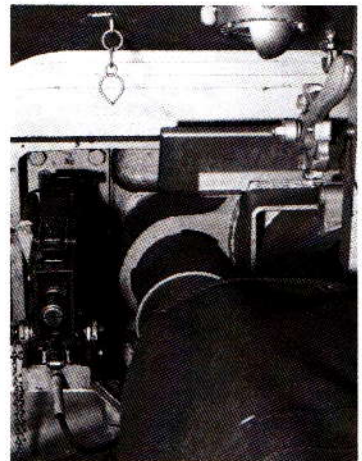
1 戦闘室部品のくみため



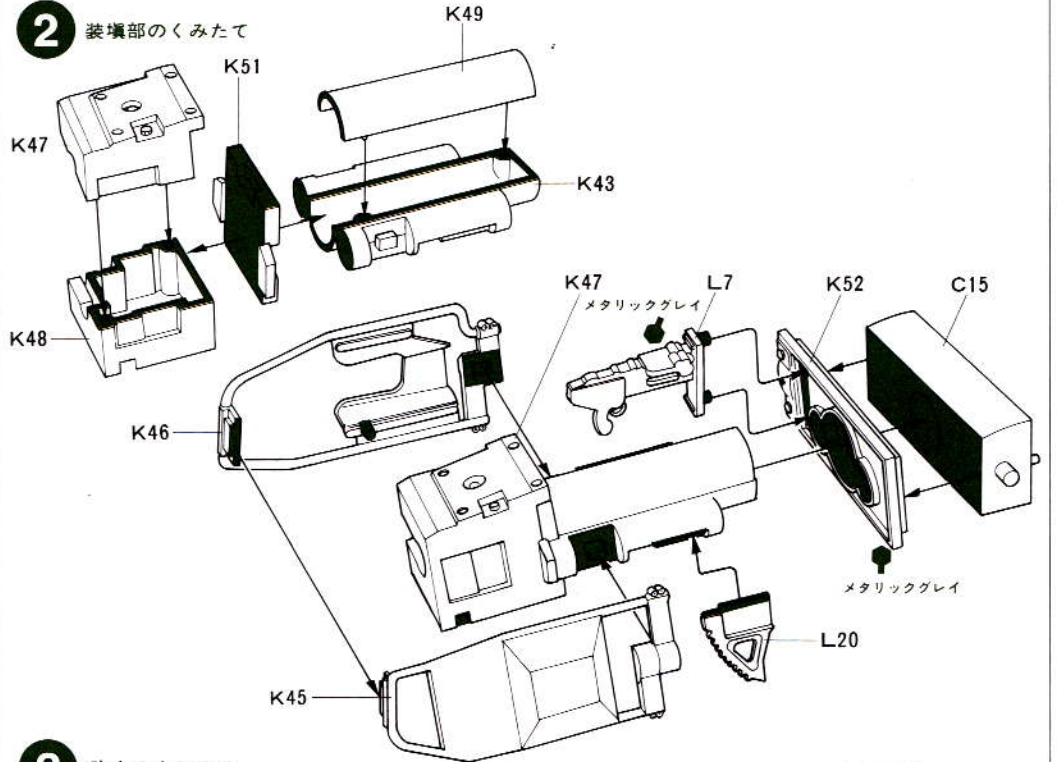
1 <戦闘室部品のくみため>

★戦闘室部品はこまかい部品の組みあわせです。番号をよく確かめまちがいのないように組みたてて下さい。

2 <装填部のくみため>



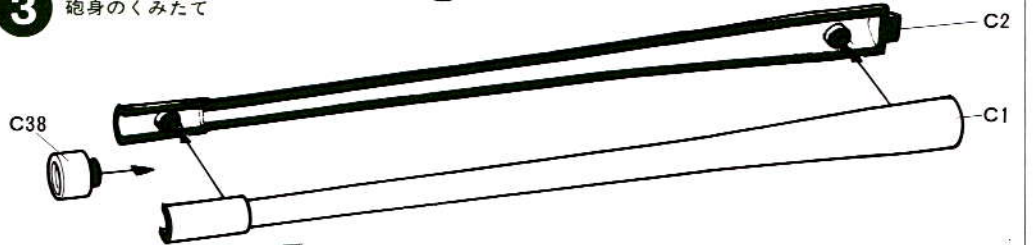
2 装填部のくみため



3 <砲身のくみため>

★砲身を組み上げたら、砲身のあわせ目の接着剤のみだし等をナイフでけずりとって下さい。

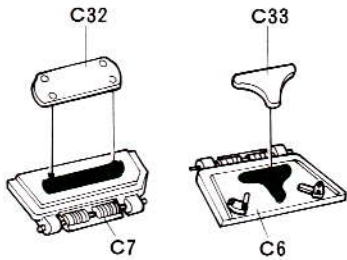
3 砲身のくみため



タミヤニュースを読む

タミヤニュースはモデル作りの情報誌として多くの方に愛読されています。ご希望の方は模型店でおたずね下さい。当社より定期購読する方法もあります。

4 〈キューボラのくみため〉
〈ローダズハッチのくみため〉



★ハッチC6、C7、C8は開閉できるよう可動となっています。ヒンジC18、C24を接着するときはハッチに接着剤がつかないように注意して下さい。

〈キューボラ部実車写真〉

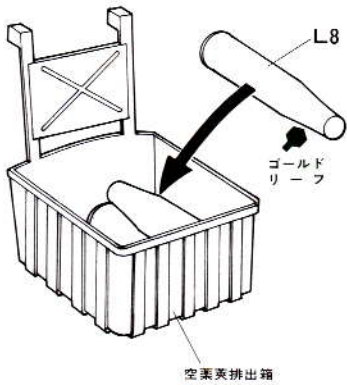


5 〈戦闘室のくみため〉

★戦闘室の各部品は接着面がせまいですから、接着剤を十分つけしっかり接着して下さい。
★F9、F10は接着後セロテープ等で固定しておきます。

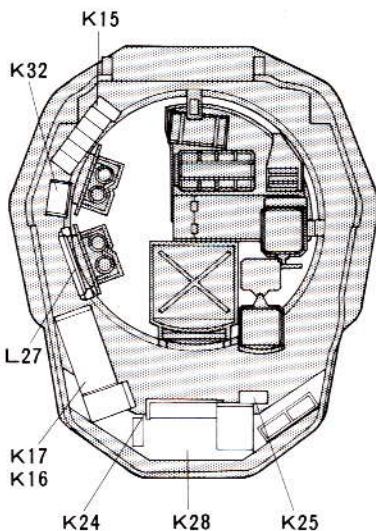
〈空薬莢の使用法〉

空薬莢L8は空薬莢排出箱に入れたり戦闘室においてアクセサリとして使します。

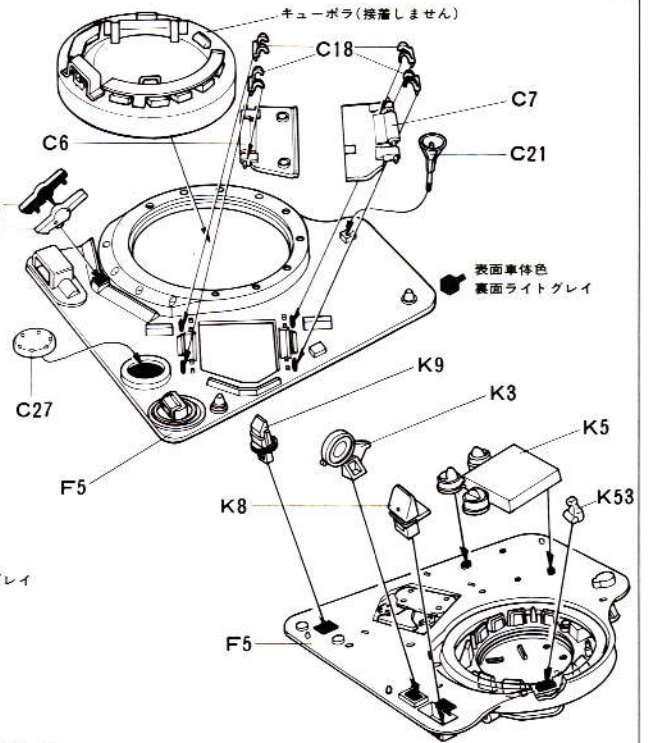
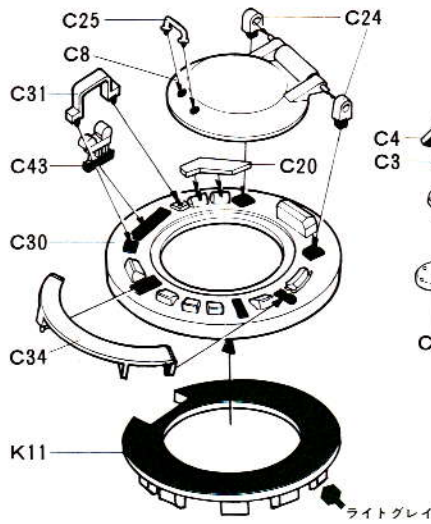


6 〈砲塔部品のとりつけ〉

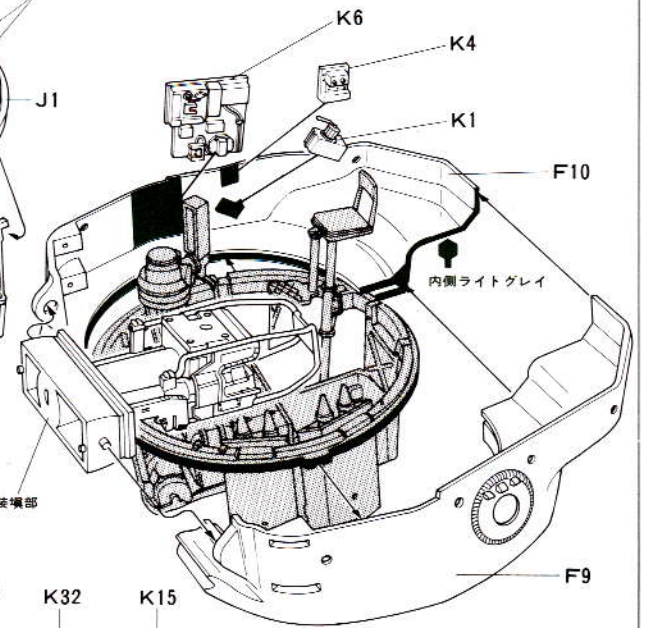
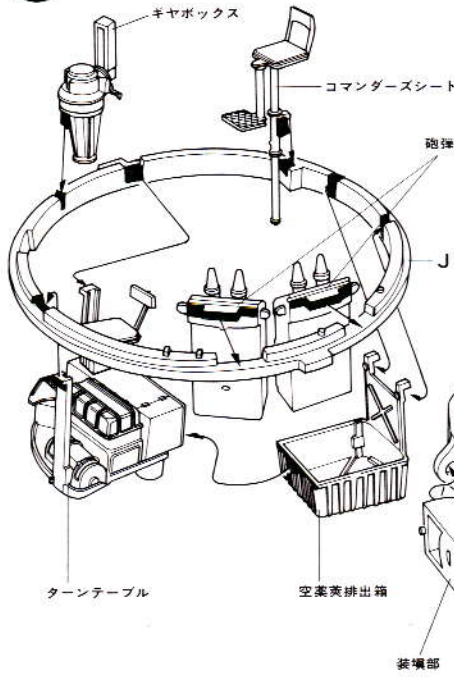
★下図を参考にして各部品の付く位置を確かめてからとりつけて下さい。



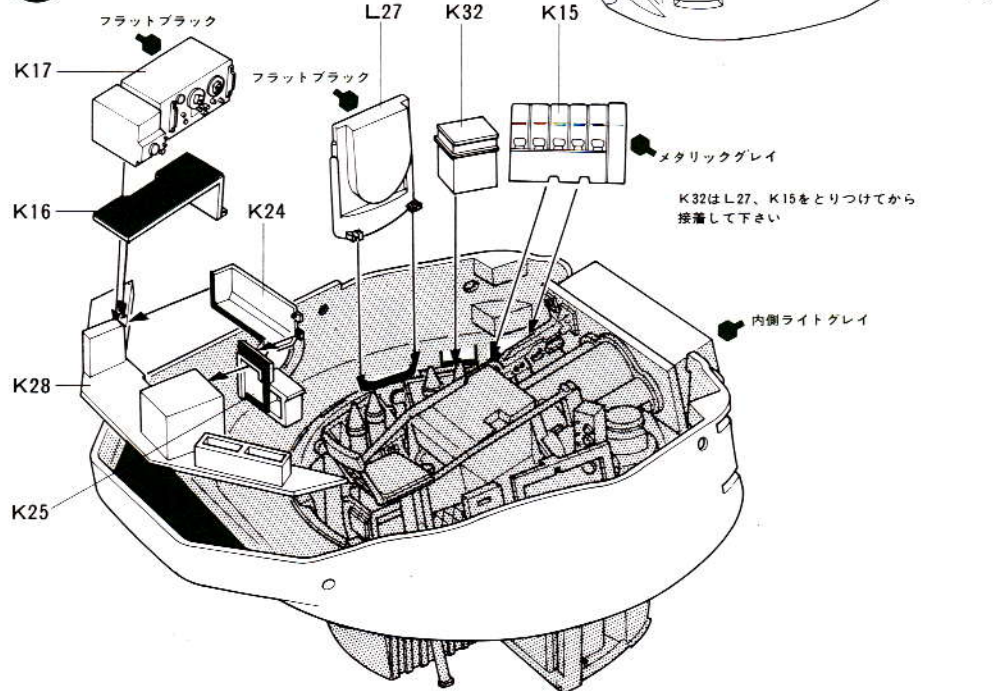
4 キューボラのくみため



5 戦闘室のくみため

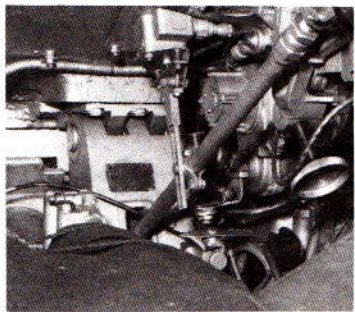


6 砲塔内部部品のとりつけ



1 《砲塔のくみため》

★F1を接着する場合、装填部を引き上げてから押し込んで下さい。

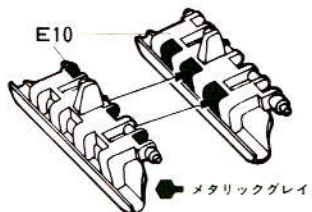


2 《砲塔左側部品のとりつけ》

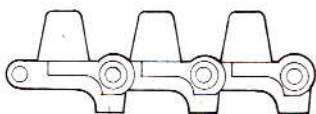
★C5は開閉どちらにもとりつけられます。どちらか選んで接着して下さい。
★スモークディスチャージャー（発煙筒）は煙幕をはるためのものです。この発射装置は60mの距離まで発煙弾をとばすことができます。

《補助キャタピラのくみため》

★補助キャタピラE10を3枚組み合わせたものを1組作ります。図のように平らに並べて接着して下さい。

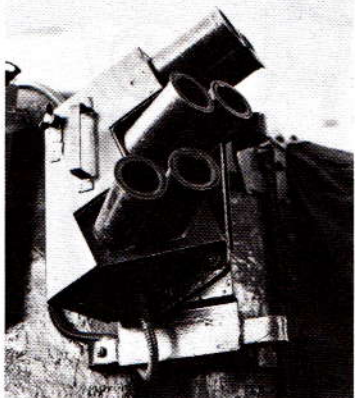


平らに接着します



E10

《スモークディスチャージャー実車写真》

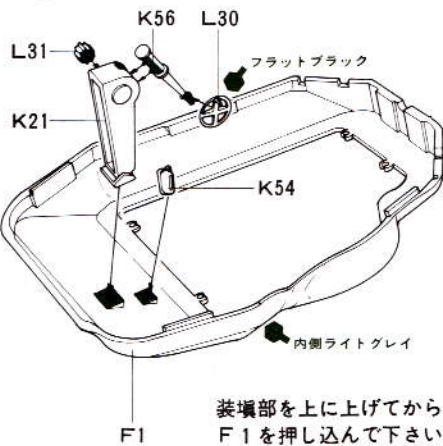


3 《砲塔右側部品のとりつけ》

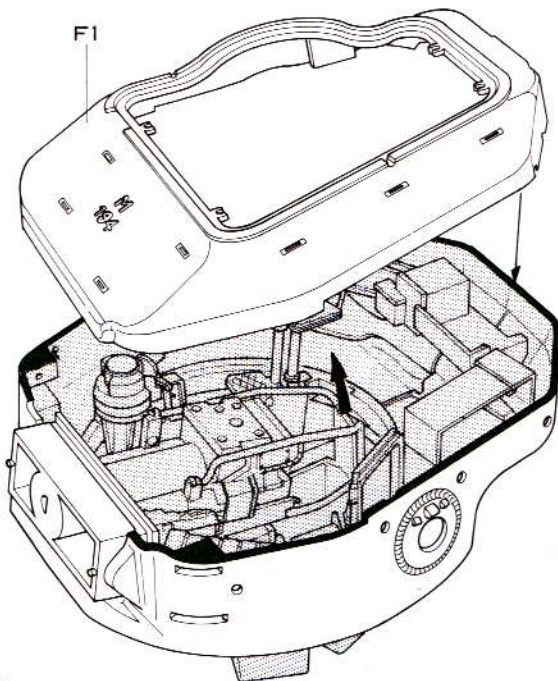
★ガンシールドは固定と可動の2種が用意してあります。どちらか選んでとりつけて下さい。



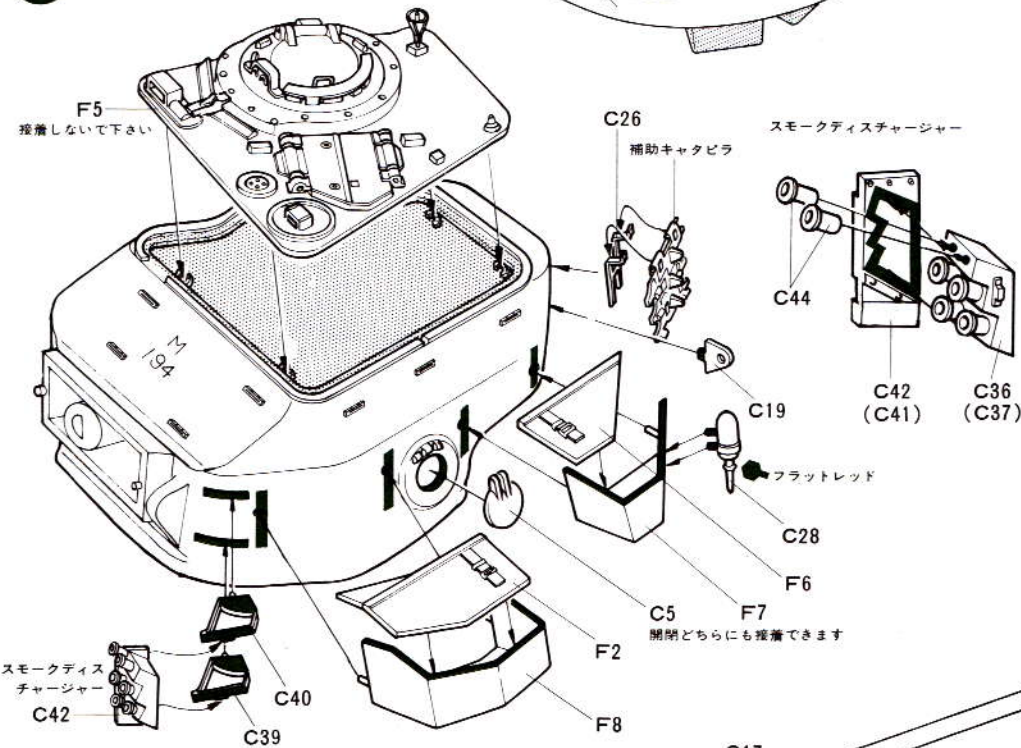
7 砲塔のくみため



装填部を上から上げてから F1を押し込んで下さい

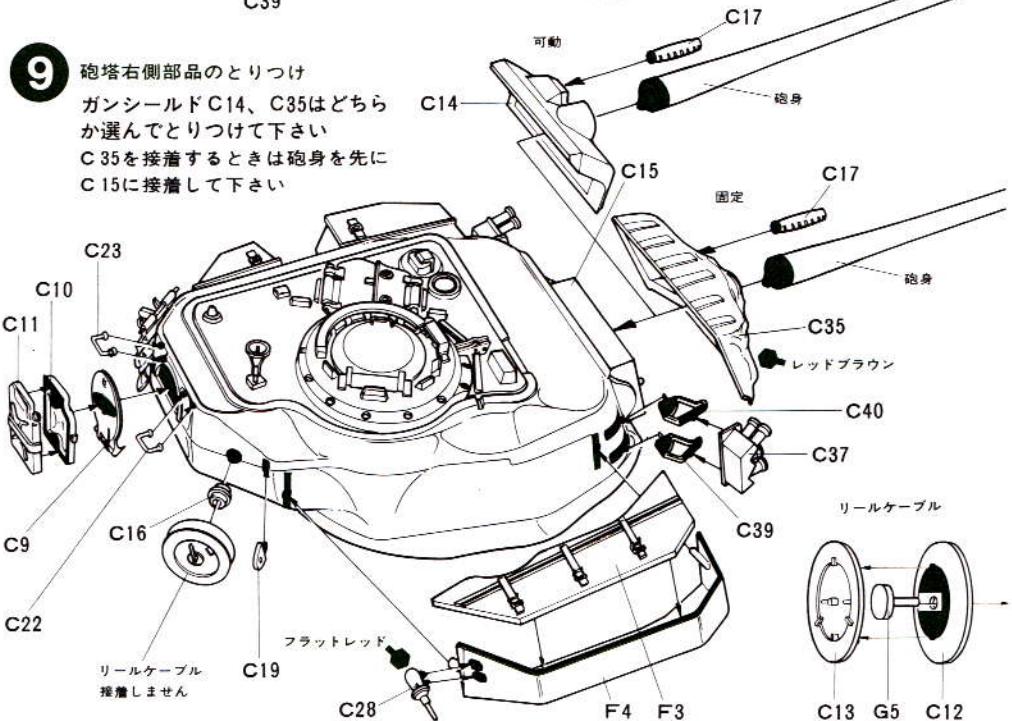


8 砲塔左側部品のとりつけ

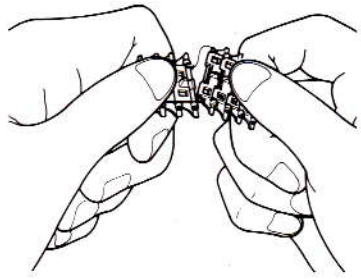


9 砲塔右側部品のとりつけ

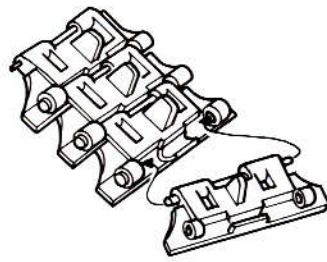
ガンシールドC14、C35はどちらか選んでとりつけて下さい
C35を接着するときは砲身を先に C15に接着して下さい



10 〈キャタピラのくみため〉
 ★キャタピラは特殊な材質のプラスチックで出来ています。キャタピラのツメのある側（裏側）を見ながら組立てるのがコツです。キャタピラは片側96枚が1組です。

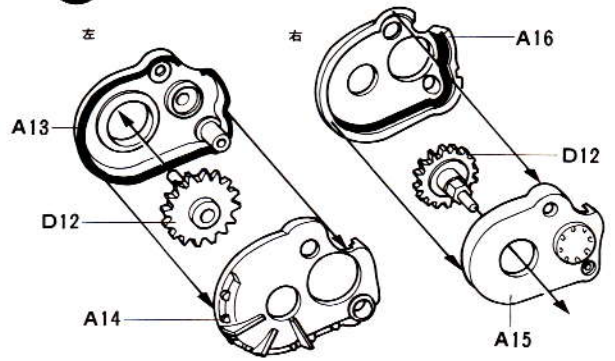


10 キャタピラのくみため



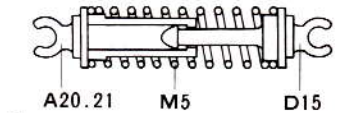
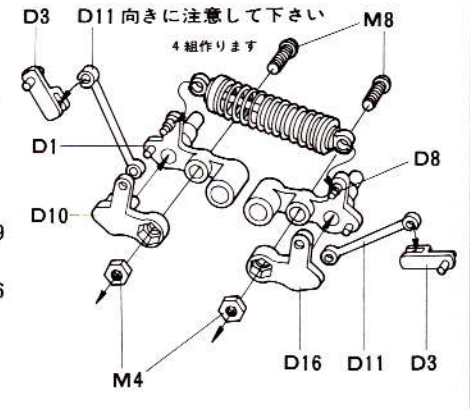
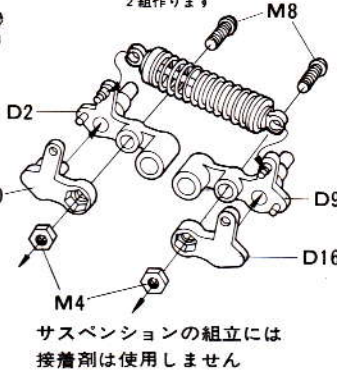
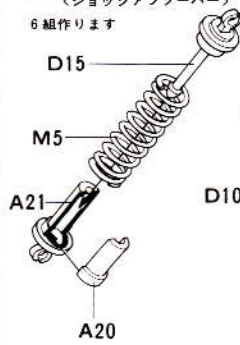
キャタピラは片側96枚連結して下さい

11 ファイナルのくみため



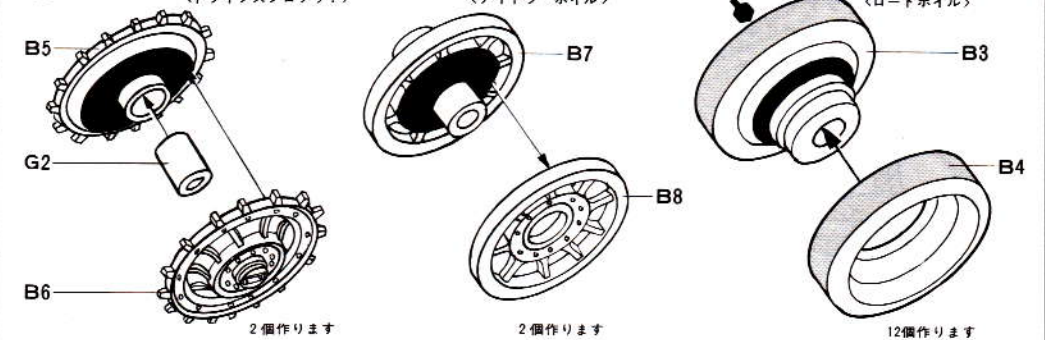
12 〈サスペンションのくみため〉
 〈ショックアブソーバーのくみため〉
 ★最初に部品A20とA21をしっかり接着します。しばらくおいてからM5、D15の順で押し込んで下さい。D15はぬけなくなるまで押し込んで下さい。

12 サスペンションのくみため



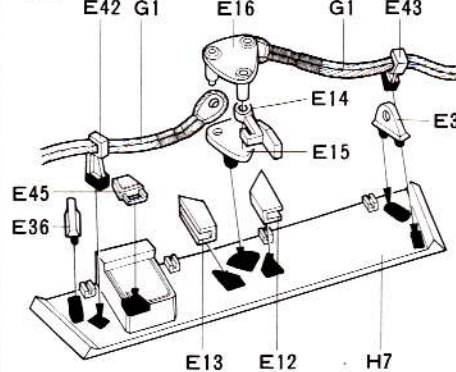
13 〈ホイールのくみため〉
 ★ドライブスプロケット、アイドラーホイールを組むときは互いのピンをあわせて接着します。

13 ホイールのくみため

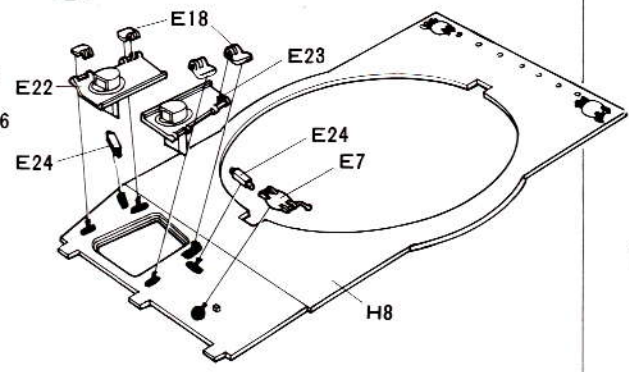


14 〈リヤパネルのくみため〉
 ★ロープG1には接着剤を使用しません。

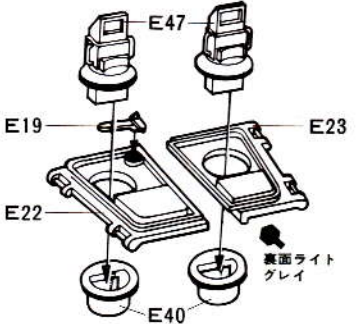
14 リヤパネルのくみため



15 ドライバースハッチのくみため

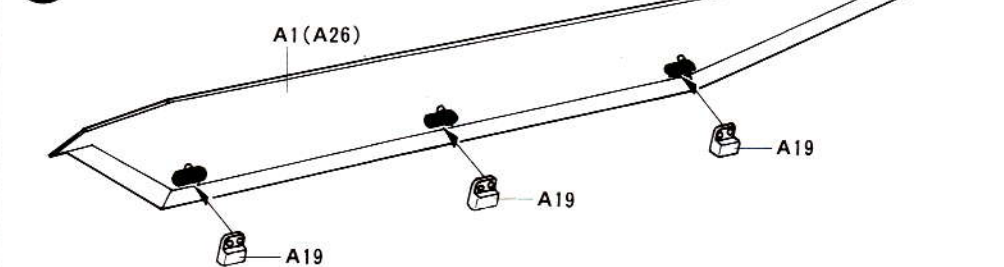


15 〈ドライバースハッチのくみため〉
 ★ハッチE22、E23は開閉できます。
 ★E18を取付けるとき接着剤がハッチに着かないよう注意して下さい。



★ベリスコープの向きに注意してとりつけて下さい。

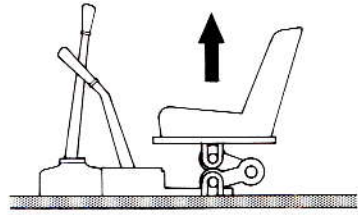
16 スカートのくみため



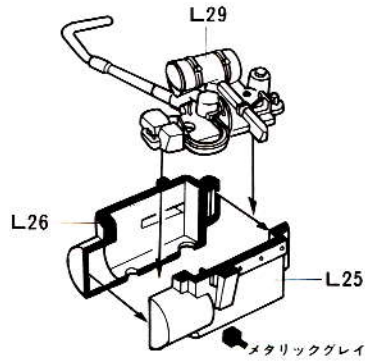
16 〈スカートのくみため〉
 ★A19はヒンジです接着剤を十分つけしっかり接着して下さい。

17 《車体内部部品のくみため》

★ドライバーシートは下図のようにおりましたみます。又ドライバーをハッチからのぞかせる場合矢印の方向にシートを引っ張りあげます。



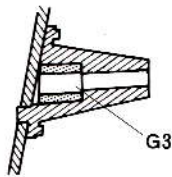
《サブエンジンのくみため》



18 《ファイナルのとりつけ》

★ファイナルはビスでしっかり固定して下さい。M2ヘッターは下部とファイナルのギヤにさしこみます。
★サポートローラーブラケットを下部にとりつけるときにはG3ポリキャップを入れて接着して下さい。

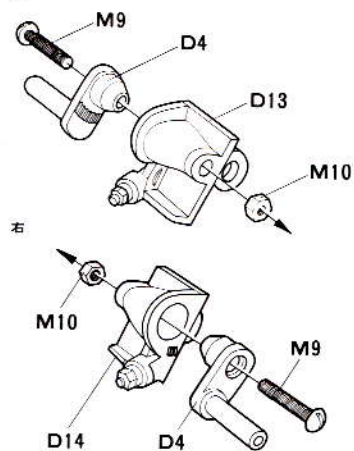
《A4、A5、A6、A9とりつけ断面図》



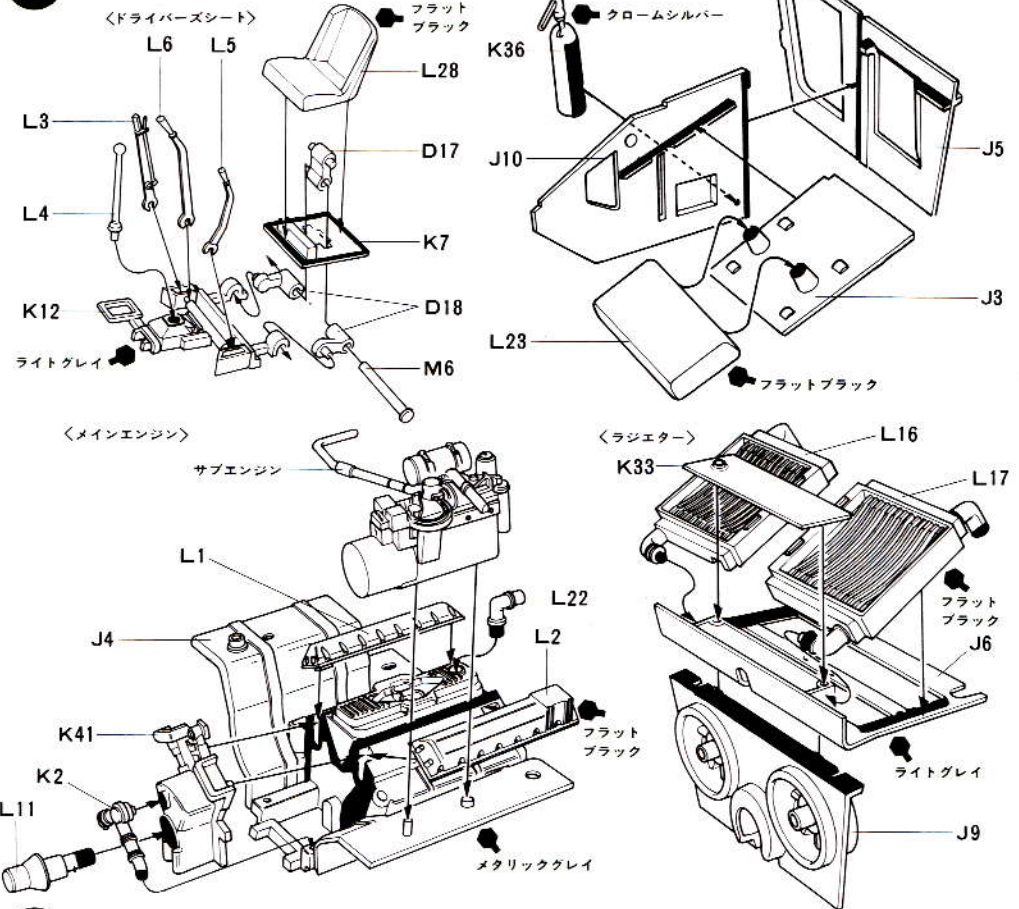
19 《サスペンションのとりつけ》

★サスペンションには2つの種類があります。形を確かめてまちがえずにとりつけて下さい。
★サスペンションは可動部です接着剤は使用しません。
★A3はスカートのヒンジです接着剤を十分につけしっかり着けて下さい。

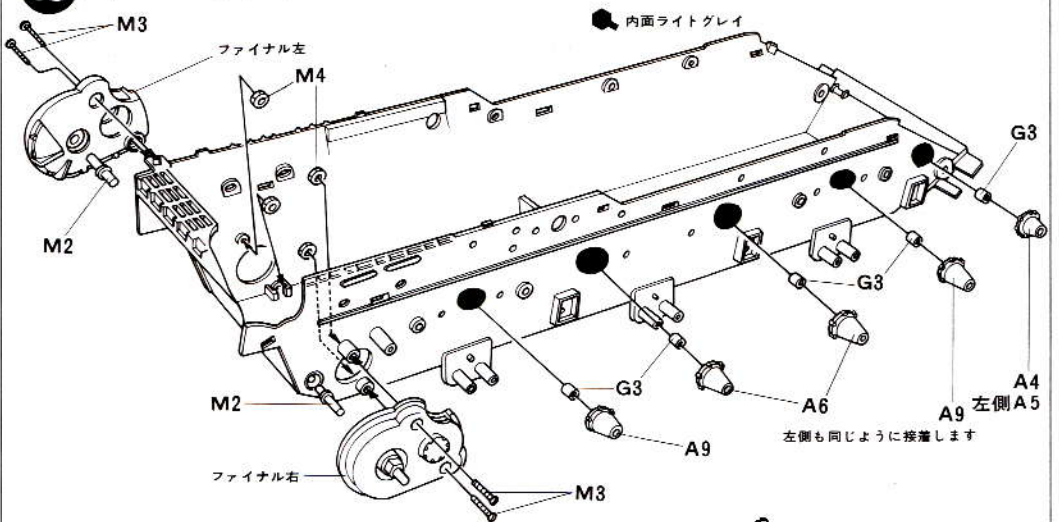
《アイドラーホイール用シャフトのくみため》



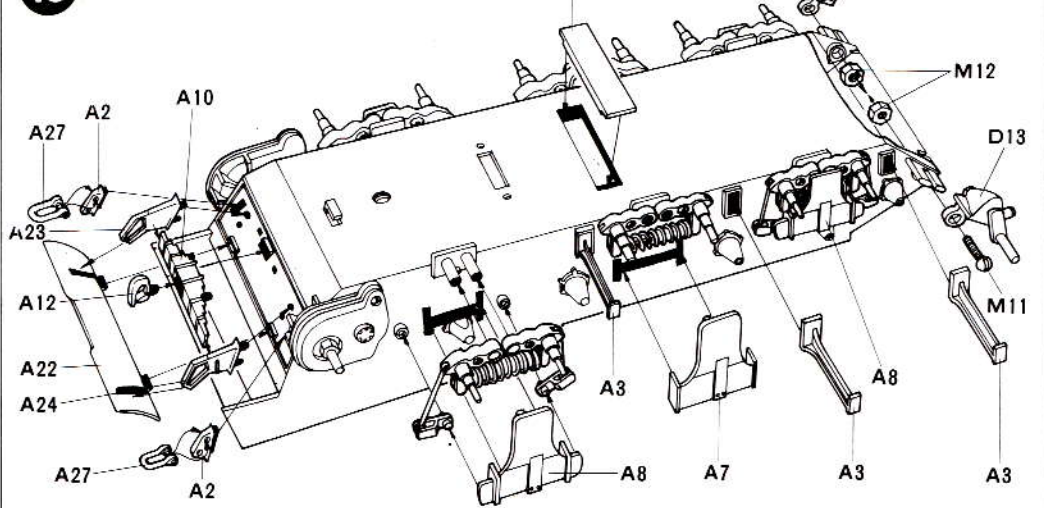
17 車体内部部品のくみため



18 ファイナルのとりつけ

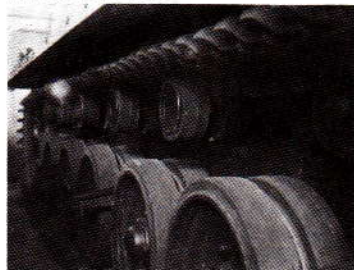


19 サスペンションのとりつけ

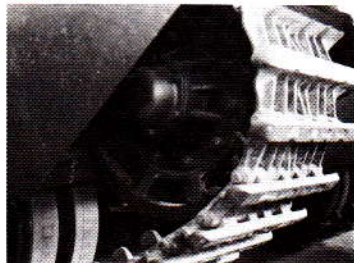


20 〈ホイールのとりつけ〉

〈実車足まわり部〉



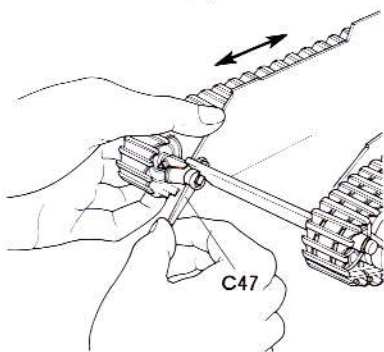
〈アイドラーホイール部実車〉



21 〈キャタピラのとりつけ〉

〈キャタピラの調整〉

★組み上ったキャタピラをホイールにはめスパナC47を使って、ナットをゆるめキャタピラのはりを調整します。キャタピラはあまり強くはらずに少したるませて調整します。

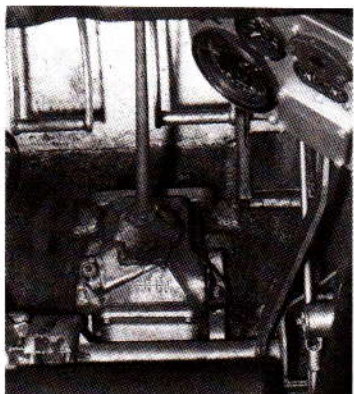


〈フェンダーのとりつけ〉

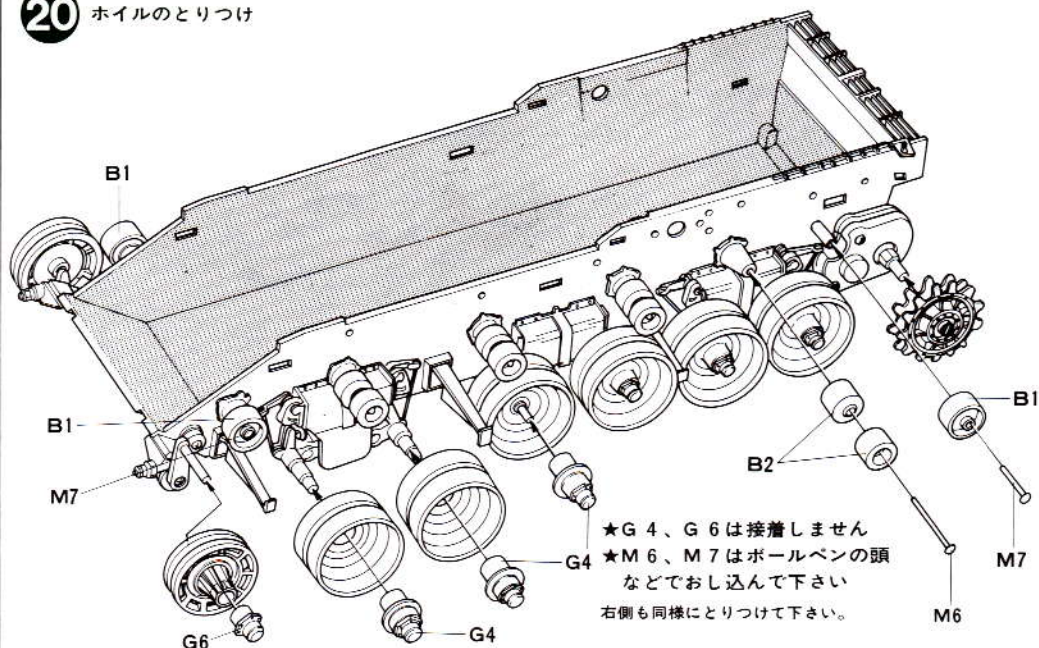
★フェンダーはまず接着剤でしっかり取付け、さらにビス、ナットで固定します。

22 〈ドライバーズルームのくみ込め〉

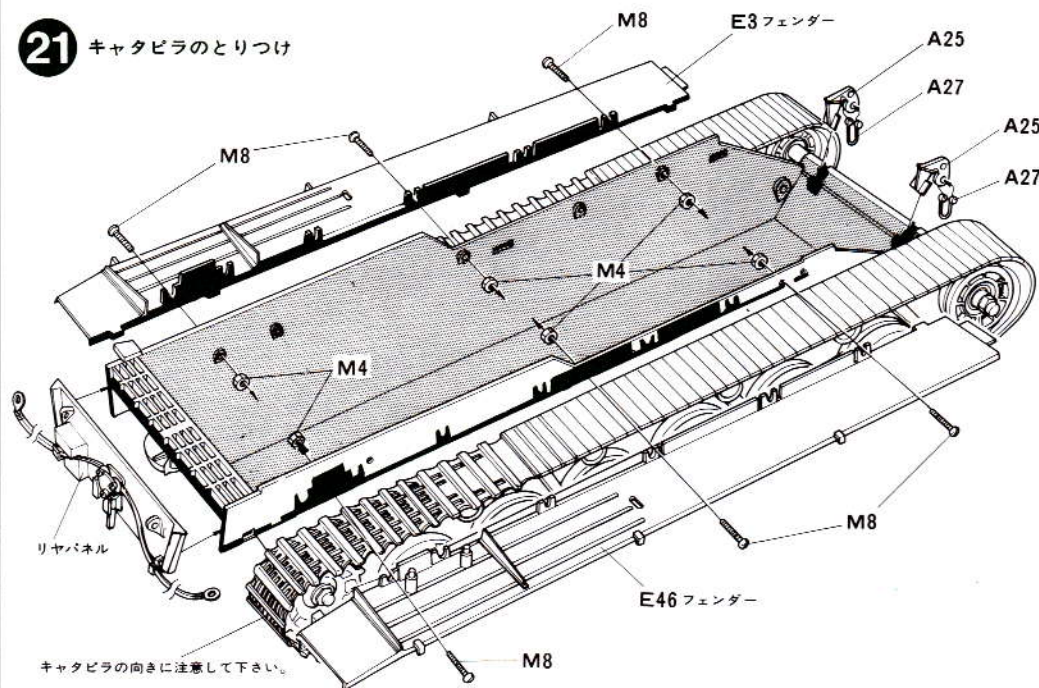
★ドライバーズルームは下部のリブにパチッとめ込んで下さい。



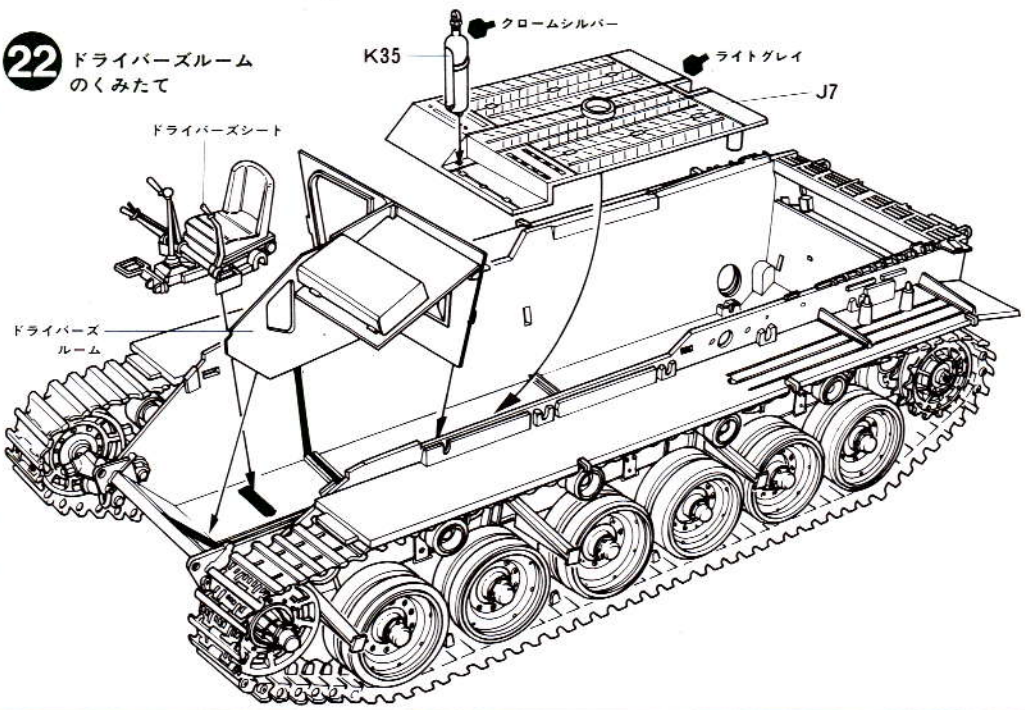
20 ホイールのとりつけ

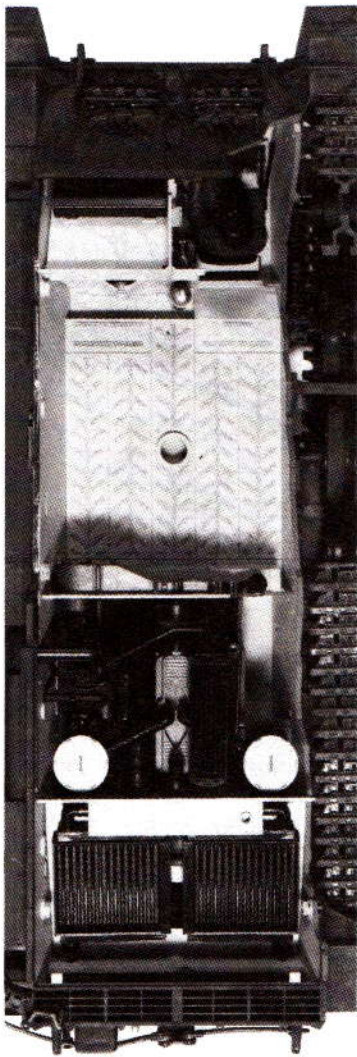
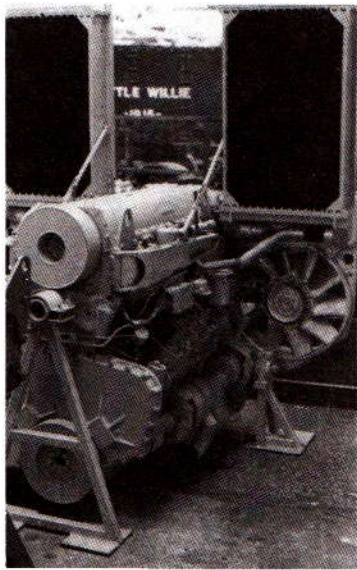


21 キャタピラのとりつけ



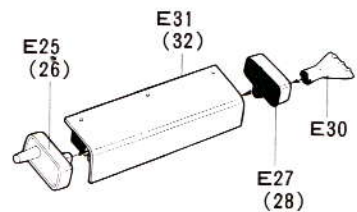
22 ドライバーズルームのくみ込め



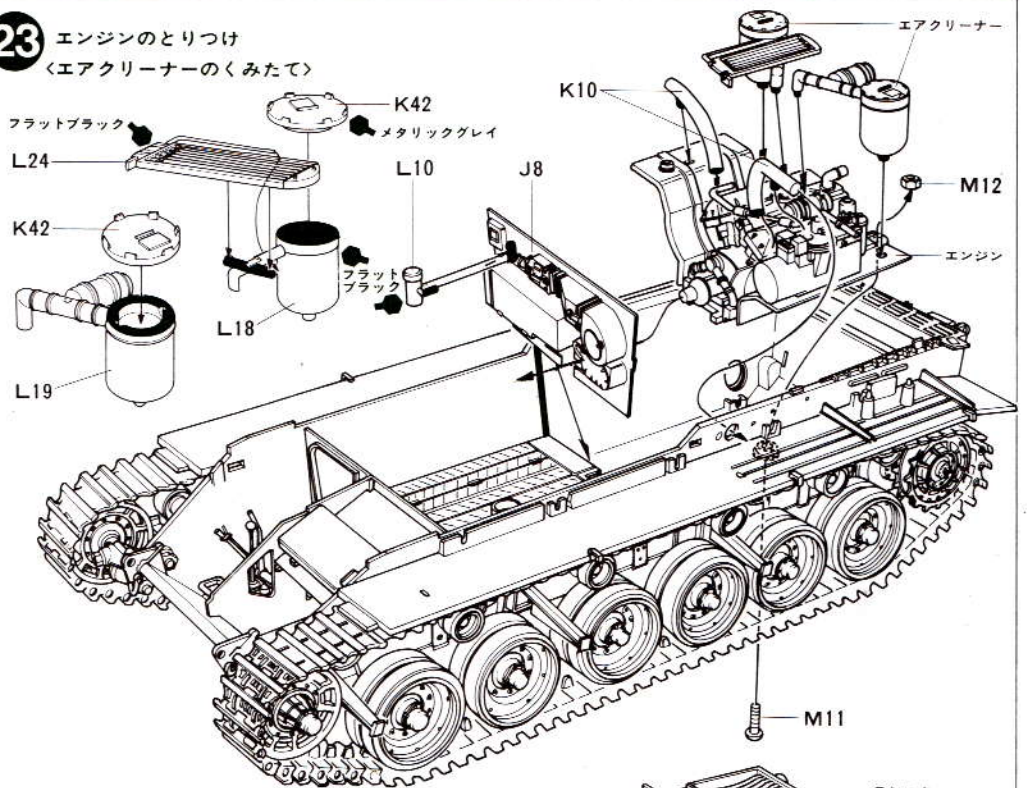


25 <前面装甲板のとりつけ>
★H5を接着後フェンダーとの接着面をクリップ等で押えておいて下さい。

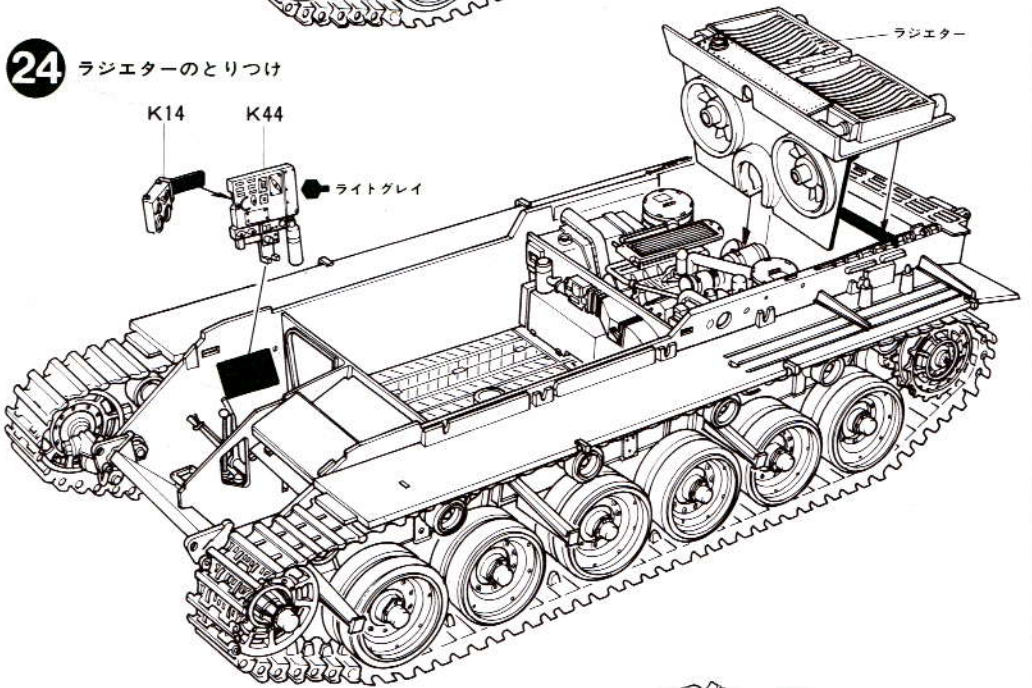
<エキゾースト部分の組立>



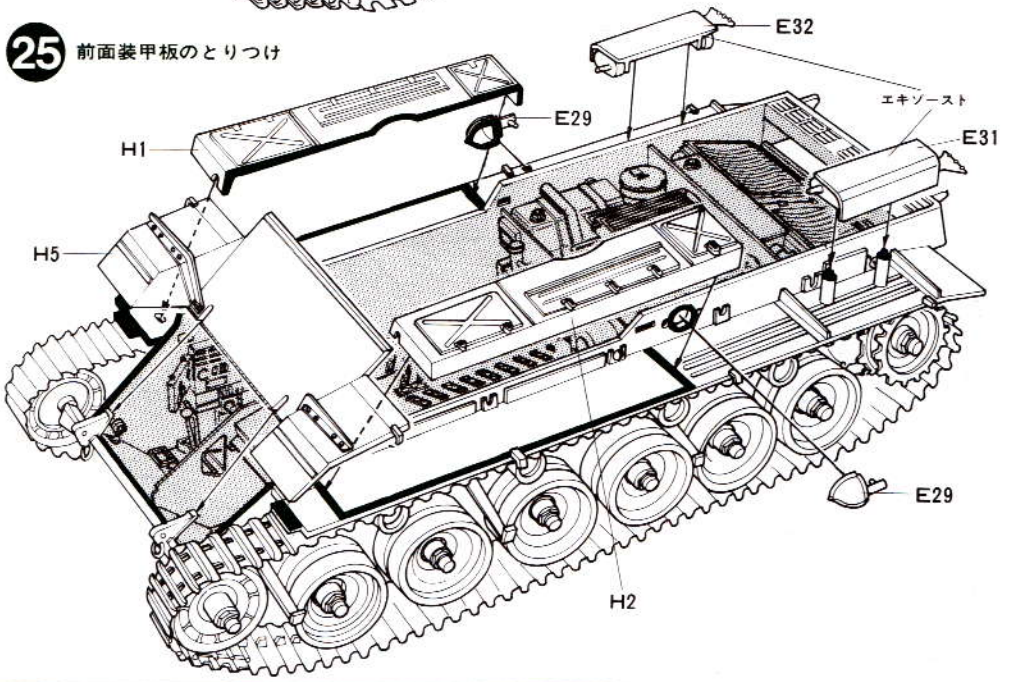
23 エンジンのとりつけ
<エアクリナーのくみ込め>



24 ラジエターのとりつけ



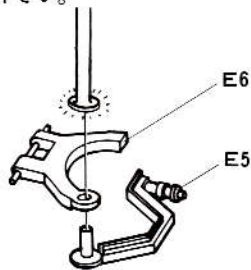
25 前面装甲板のとりつけ



26 〈戦闘室カバーのとりつけ〉

〈コントラベルロックの組立〉

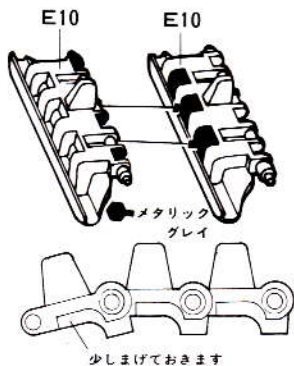
★E5、E6を図のように組み、くぎなどを熱して焼き止めし、E5を可動させます。★やけどをしないように注意して下さい。



27 〈エンジンカバーのとりつけ〉

〈補助キャタピラの組立A〉

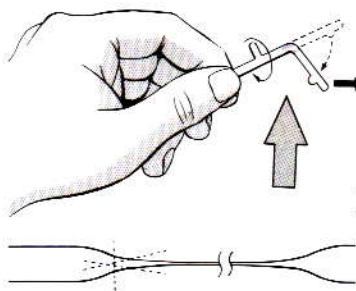
★補助キャタピラE10を3枚組み合わせたものを2組つくります。下図のように3枚の中のうち1枚を少しまげて接着して下さい。



★イスラエル軍のセンチリオンには工具箱が上の写真の位置にとりつけたものもあります。

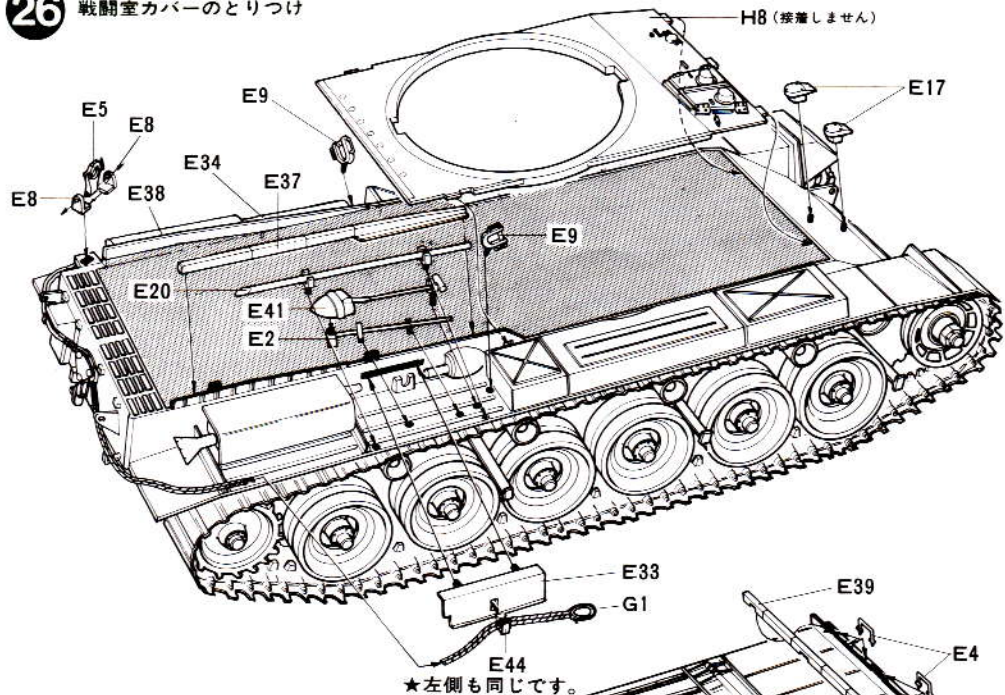
28 〈車体の完成〉

〈アンテナの作り方〉

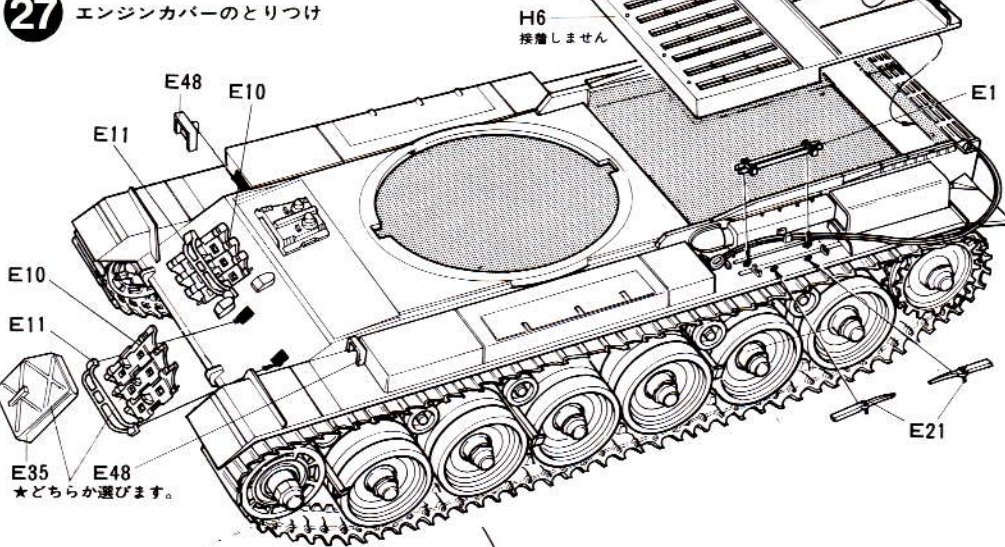


★ランナー（枝）を利用して上図のようにまわしながら熱であためます。曲りはじめたら、ゆっくりひっぱると細くなります。動かさずに15秒ぐらい冷したら10cmの長さに2本切ります。★アンテナは熱を使って作りますから充分注意して作りましょう。

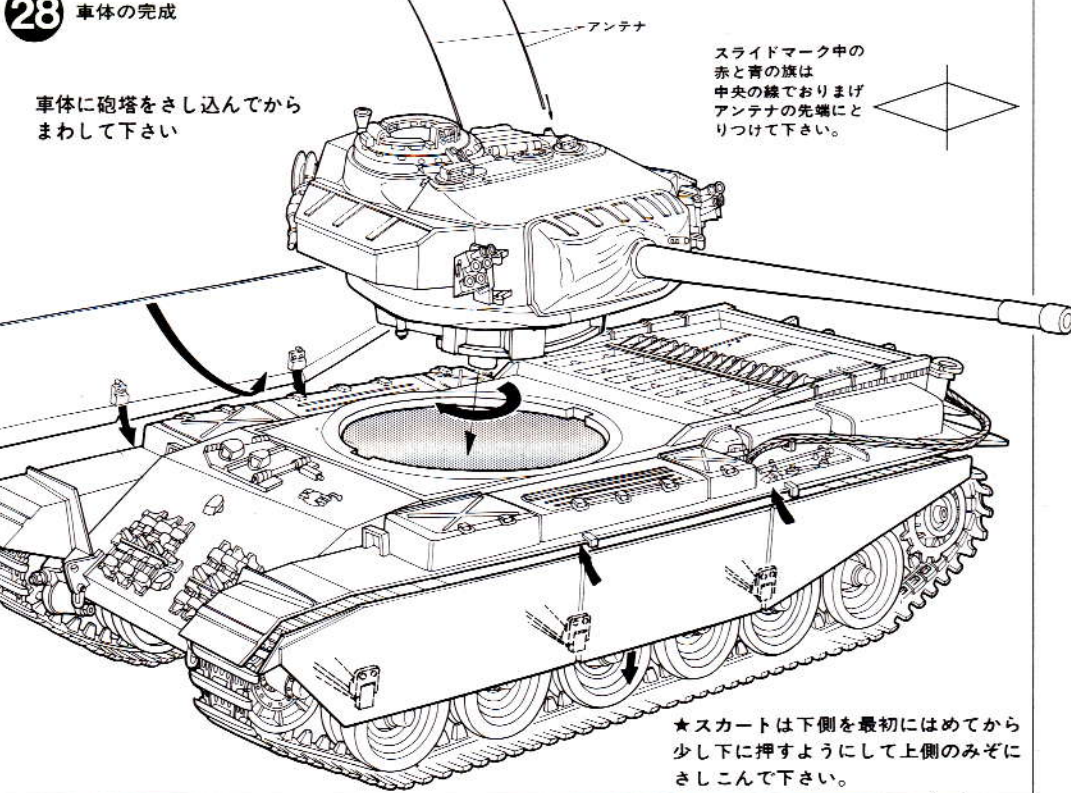
26 戦闘室カバーのとりつけ



27 エンジンカバーのとりつけ



28 車体の完成

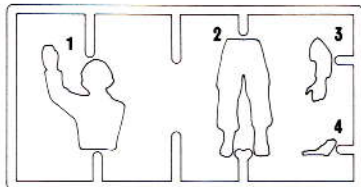


車体に砲塔をさし込んでからまわして下さい

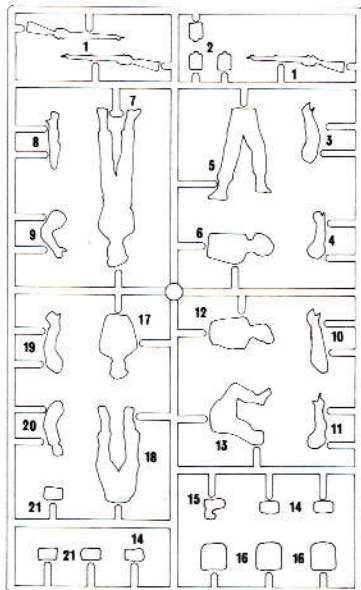
スライドマーク中の赤と青の旗は中央の線でおりまげアンテナの先端にとりつけて下さい。

★スカートは下側を最初にはめてから少し下に押すようにして上側のみぞにさしこんで下さい。

N 部品



O 部品



《人形の塗装》

★イギリス戦車兵の制服はカーキグリーン
のタンクスーツです又歩兵はブリ
ティッシュカーキの戦闘服を着用して
います。

カーキグリーンは
オリーブドラブ+フラットグリーンで
分量は1：2です。

ブリティッシュカーキは
レッドブラウン+オリーブドラブ+フ
ラットホワイトで分量は4：2：1で
す。

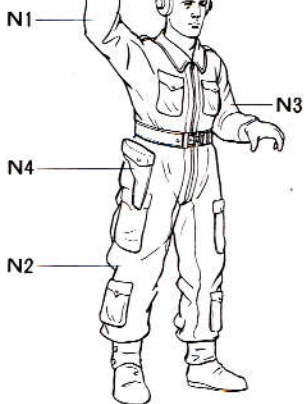
《人形の塗装に使用する塗料》

- フラットブラック……………XF 1
- フラットホワイト……………XF 2
- フラットグリーン……………XF 5
- フラットブラウン……………XF 10
- メタリックグレイ……………XF 56
- ダークイエロー……………XF 60
- オリーブドラブ……………XF 62
- レッドブラウン……………XF 64
- フラットフレッシュ……………XF 15



29 人形の組立て

コマンダー
左手をキューボラレール
にかけます

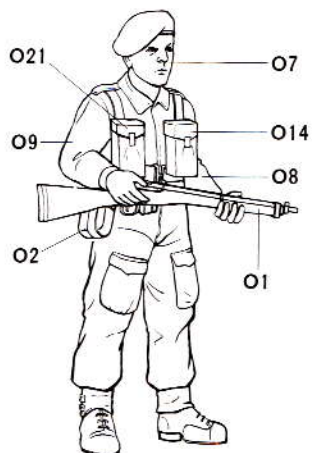


ドライバー

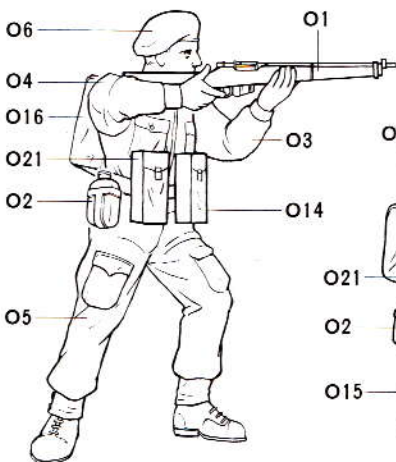
ドライバーズシートに座ら
せ左手はステアリングレバ
ーをもたせませす



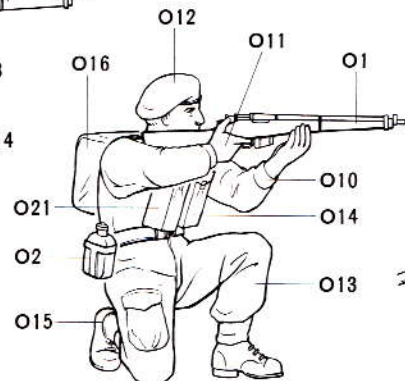
歩兵 A



歩兵 B



歩兵 C



歩兵の背側

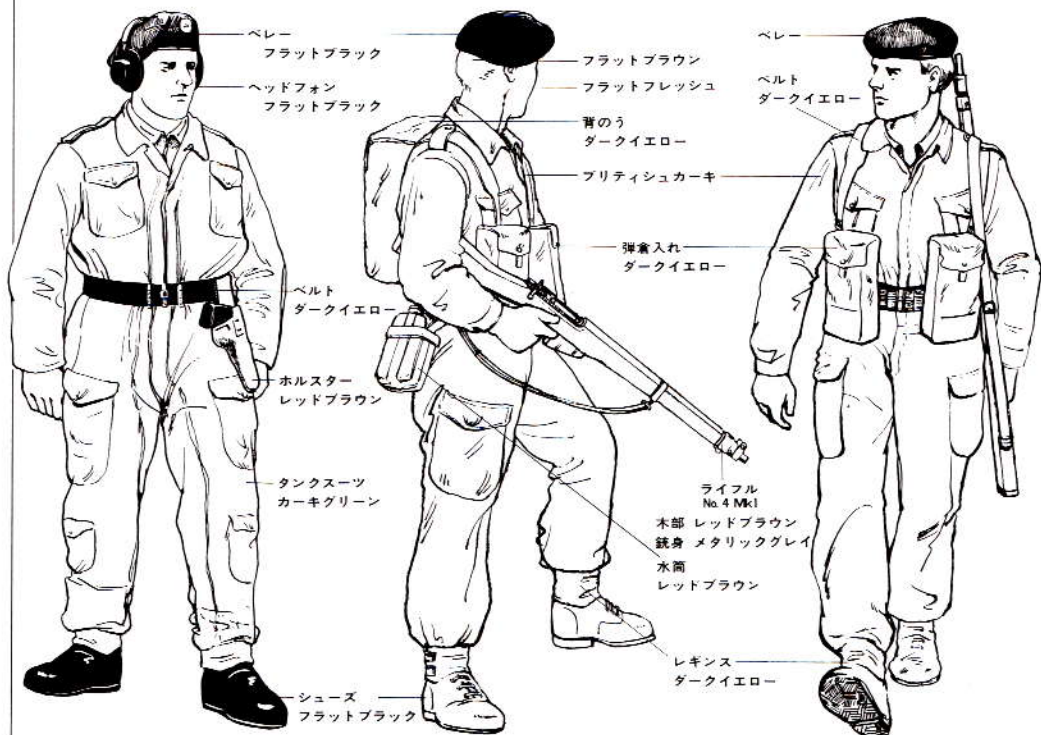
O16、O2をつける位置は
下図の場所です



PAINING

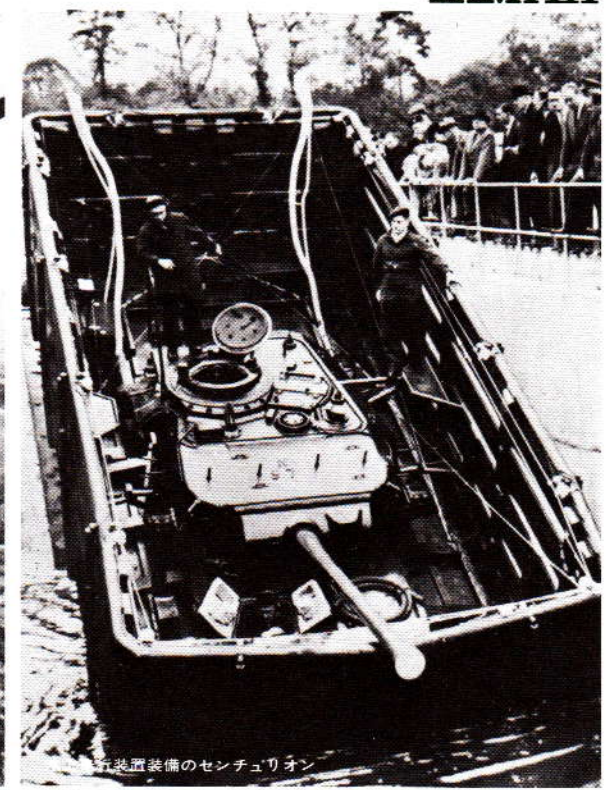
戦車兵

歩兵





川を渡るための英軍セントリーオン



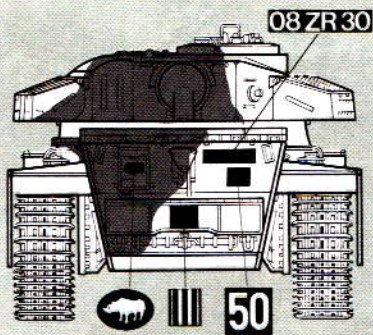
行装装置のセントリーオン



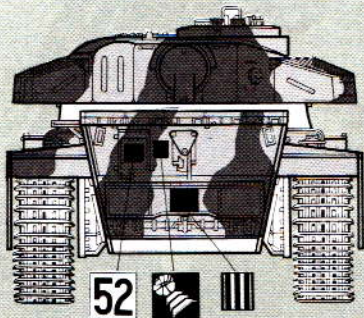
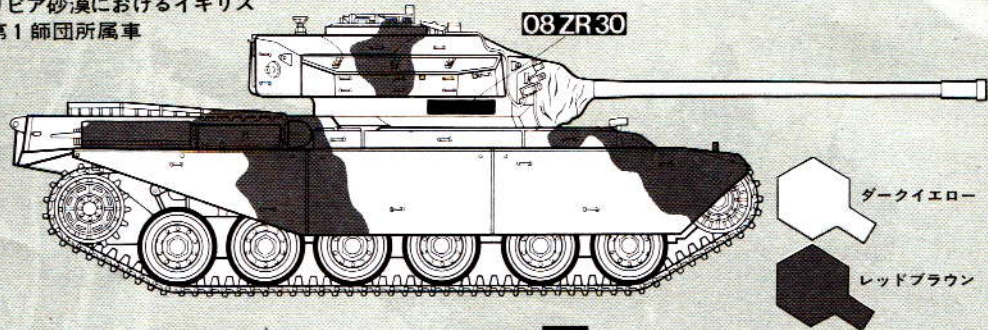
つり上げられたセントリーオン



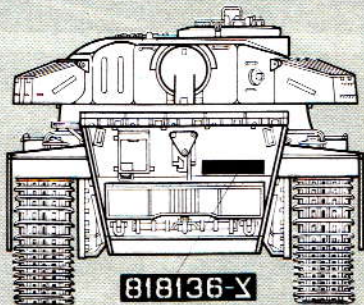
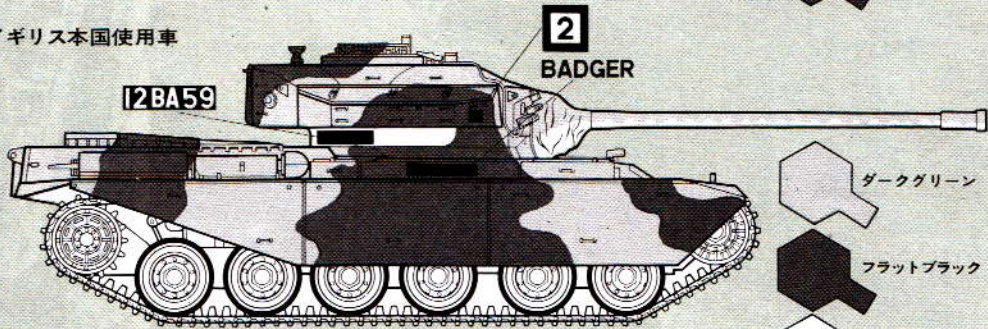
スエズ動向でのセントリーオン Mk5



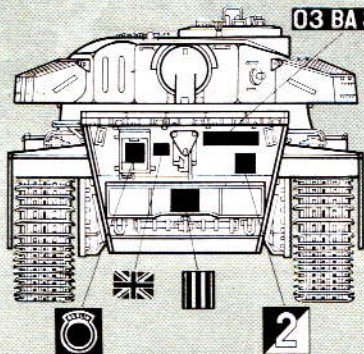
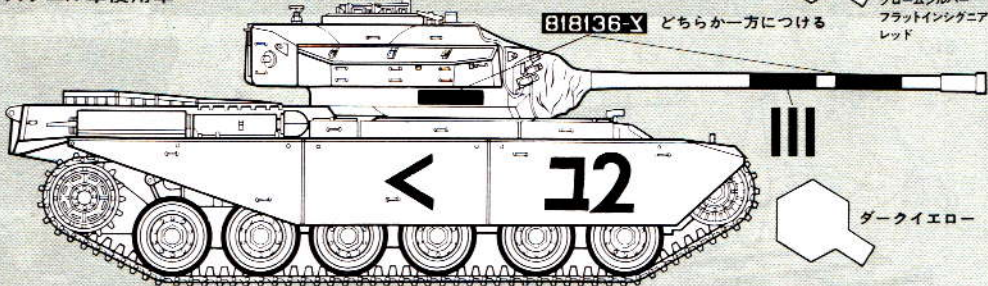
リビア砂漠におけるイギリス
第1師団所属車



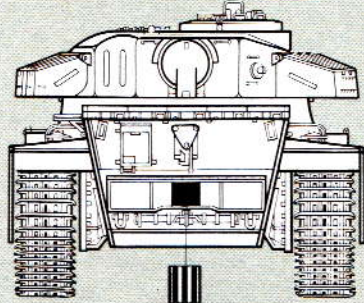
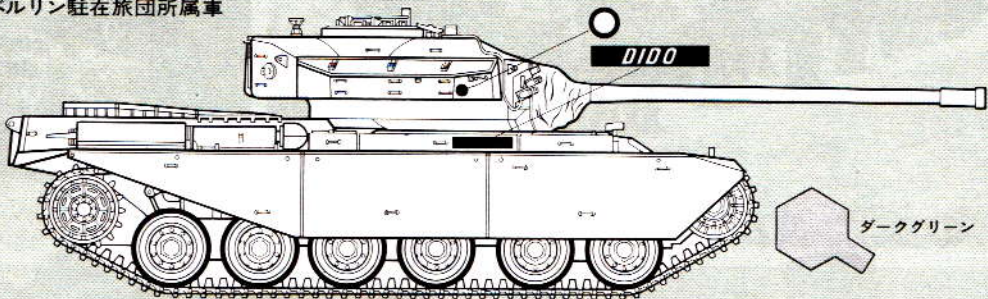
イギリス本国使用車



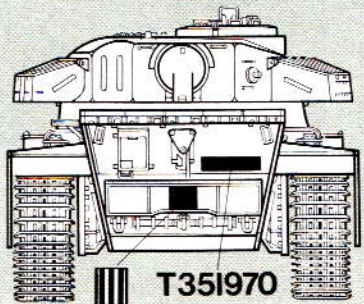
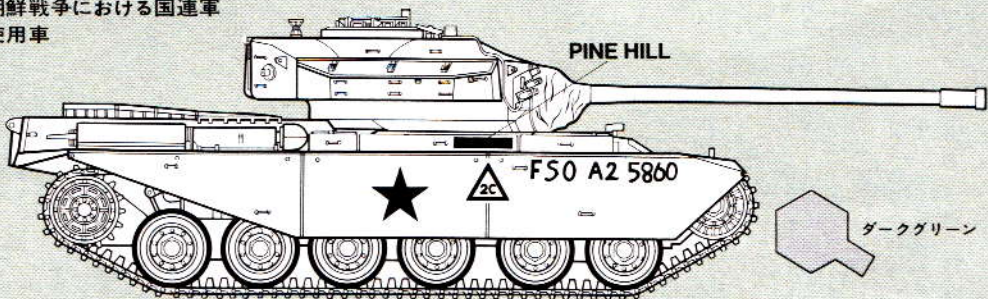
イスラエル軍使用車



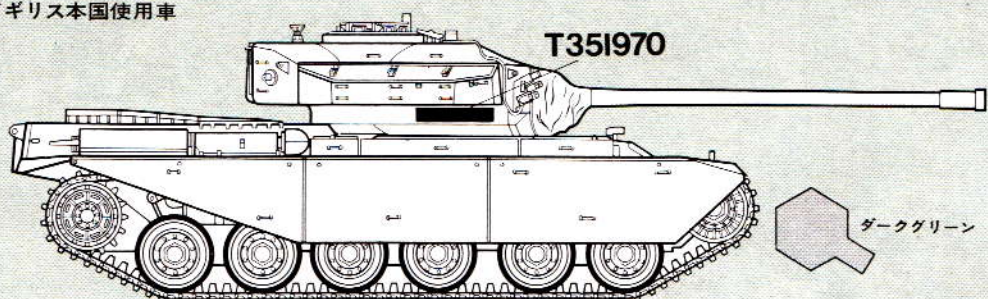
ベルリン駐在旅団所属車

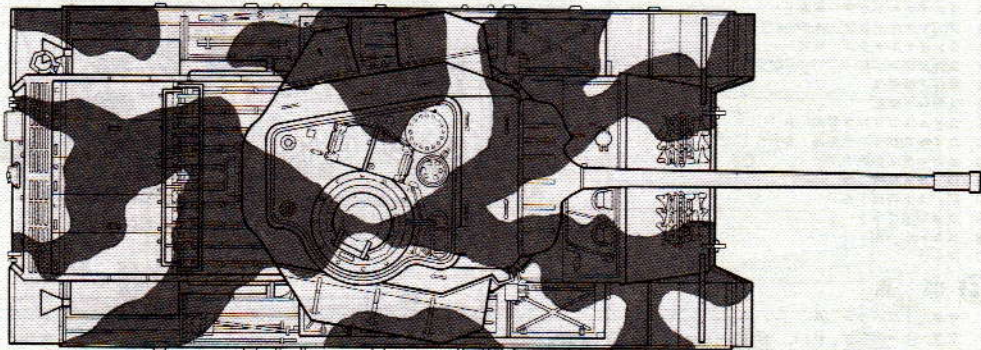
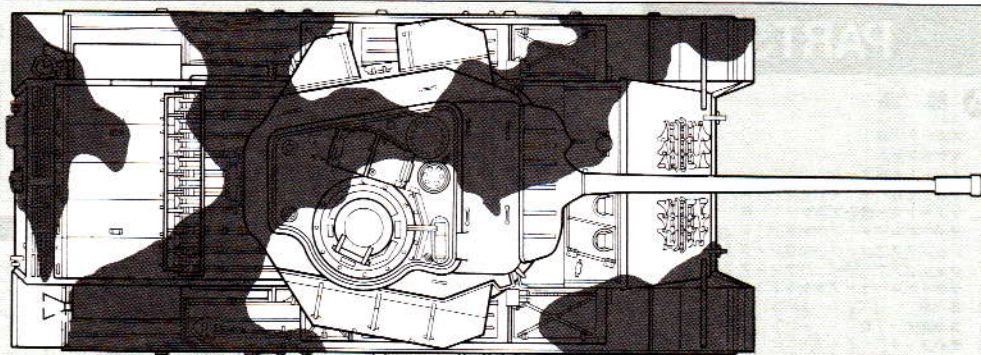
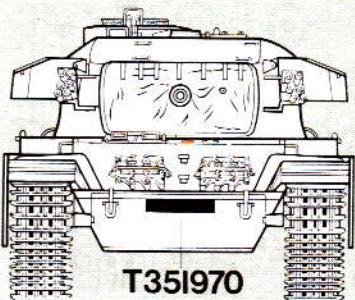
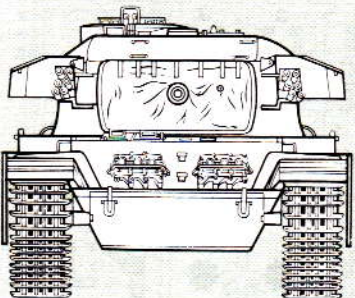
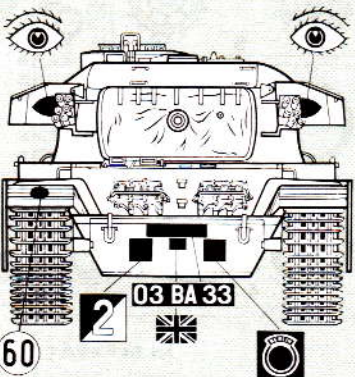
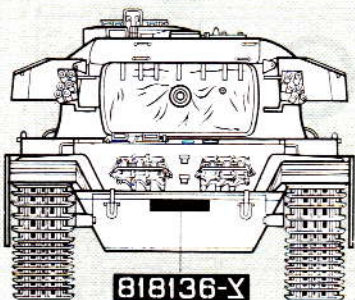
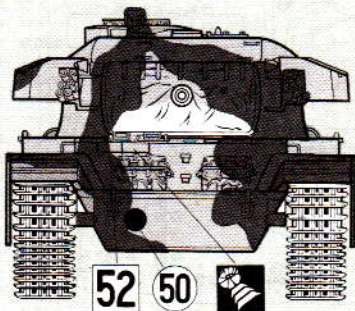
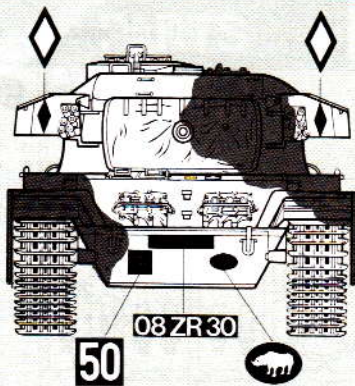


朝鮮戦争における国連軍
使用車



イギリス本国使用車





PAINTING & APPLYING DECALS

《イギリス戦車の色について》

大戦後のイギリス戦車の塗装は、ダークグリーン1色による塗装が最も一般的に使われ、センチュリオンでもこのダークグリーンの単色塗装がよく使われています。

イスラエルなどの砂漠地帯では少し青みがかったダークイエローの単色塗が使われました。センチュリオンの迷彩塗装の中で多くみられるものにダークイエローとレッドブラウンを使用したものがあります。

この2色迷彩塗装の特徴は、それぞれの色の塗装面積が大きく、塗り分けの境界線がはっきりしている事です。これらはいずれもイギリス戦車迷彩塗装の伝統でしょうか、ボカシ塗装やはん点迷彩はほとんど見られません。

少し変わった迷彩にダークグリーン、フラットブラック、パールグレイの3色を使用したものがあります。このうち迷彩に使われる色はダークグリーンとフラットブラックで、やはり大まかな迷彩になっています。パールグレイは明るい灰色で、車体下部や砲塔基部など戦車の影になる部分に塗装されます。

これらの塗装はいかにうまく車体を背景にとけませ、目立たないようにするかが重要な役目になっています。ですから戦車の使われる地方の色彩的特徴によって塗装が決められると言えます。

戦車内部の塗装は大半ライトグレイ一色で塗られていますがエンジンなどメタリックグレイやフラットブラックを使用し金属感を出しリアルにしてください。

《使用する塗料》

★タミヤからは、手軽に使えるスプレー式のタミヤカラー、筆塗り用のエナメル塗料、アクリル塗料が発売されています。色の正確なタミヤの塗料ですばらしい傑作に仕上げてください。

★このキットには次の色の塗料が使用されます。

《エナメル・アクリル塗料から》

フラットブラック…XF1	ダークグリーン……XF61
フラットホワイト…XF2	レッドブラウン……XF64
フラットグリーン…XF5	ライトグレイ……XF66
フラットレッド…XF7	クロームシルバー……X11
メタリックグレイ…XF56	ゴールドリーブ……X12
ダークイエロー……XF60	カーキ……XF49

《スプレー塗料から》

ダークグリーン……TS2
レッドブラウン……TS1
ダークイエロー……TS3



《マークの説明》

- 第1師団のマークです。
- 第6師団のマークです。この師団は第2次大戦の時は、北アフリカで活躍しました。
- ベルリン駐在旅団の識別サインです。
- スコードロンサイン、中隊本部車輛を示します。
- チャイニーズアイ、これは第4戦車連隊の識別サインです。
- 朝鮮戦争における国連軍を表わす星のマークです。
- 戦車の重量を表わし、橋を通過する時の限界重量を識別します。通常ブリッチクラスと呼ばれています。
- これらは戦車に付けられたニックネームです。この他にMAPLEHILL, LONDON STAT ESMAN, COLOMBO などがあります。

イスラエルのセンチュリオンのアーマースカートに描かれているこのマークは、前、上、下とマークの向きによってその車輛の行動方向が表示されるようになっています。

《イギリス戦車のマークについて》

イギリス戦車のマークは、軍団、師団、独立旅団等大きな編成を示すマーク [] 第1師団] とその下に所属する大隊、連隊、部隊番号を示すマーク [] が有ります。この他に中隊マーク [スコードロンサイン] やNATO軍が使用している渡橋時の車体重量表示マーク [60トン] などが有ります。



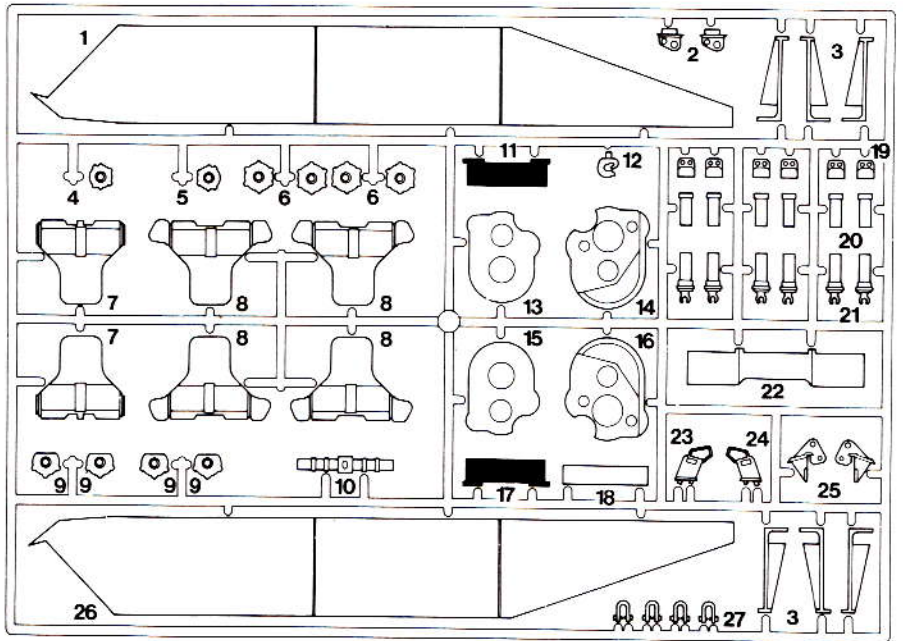
PARTS

A 部品

11, 17は不要部品です

A 部品

1. スカート 右
2. リヤフック
3. スカート支持アーム
4. サポートローラーブラケット A
5. サポートローラーブラケット B
6. サポートローラーブラケット C
7. ショックアブソーバーハウジング A
8. ショックアブソーバーハウジング B
9. サポートローラーブラケット D
10. 板バネ
11. コネクター D
12. 牽引フック
13. ファイナルドラブ A左
14. ファイナルドラブ B左
15. ファイナルドラブ A右
16. ファイナルドラブ B右
17. コネクター C
18. 車体下部部品
19. スカート部品
20. コイルスプリング部品 A
21. コイルスプリング部品 B
22. エアディフレクター
23. 板バネ支持板 右
24. 板バネ支持板 左
25. フロントフック
26. スカート 左
27. フック

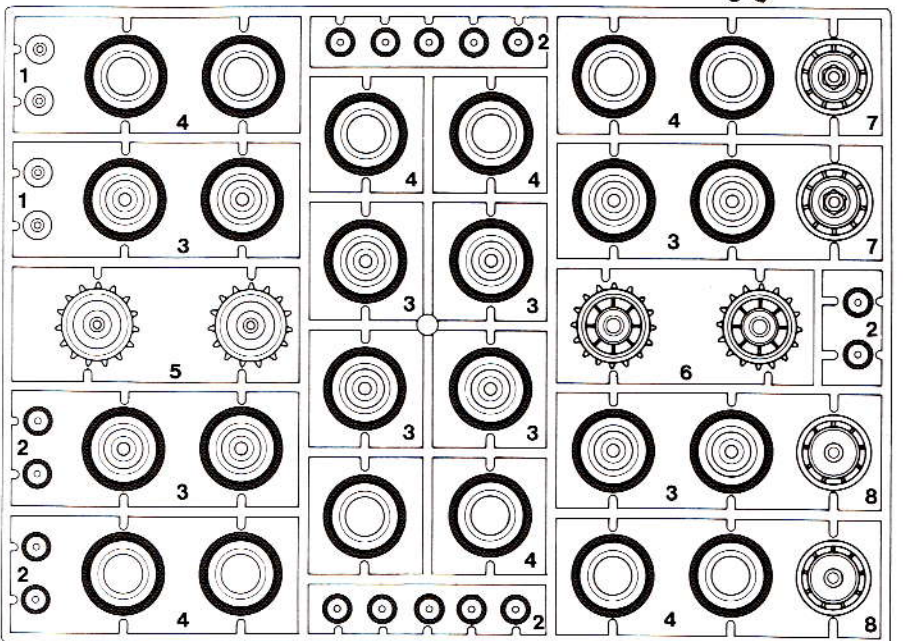


B 部品

1. サポートローラー A
2. サポートローラー B
3. ロードホイール 表
4. ロードホイール 裏
5. ドライブスプロケット 裏表
6. ドライブスプロケット 表
7. アイドラーホイール 表
8. アイドラーホイール 裏

B 部品

フラットブラック



C 部品

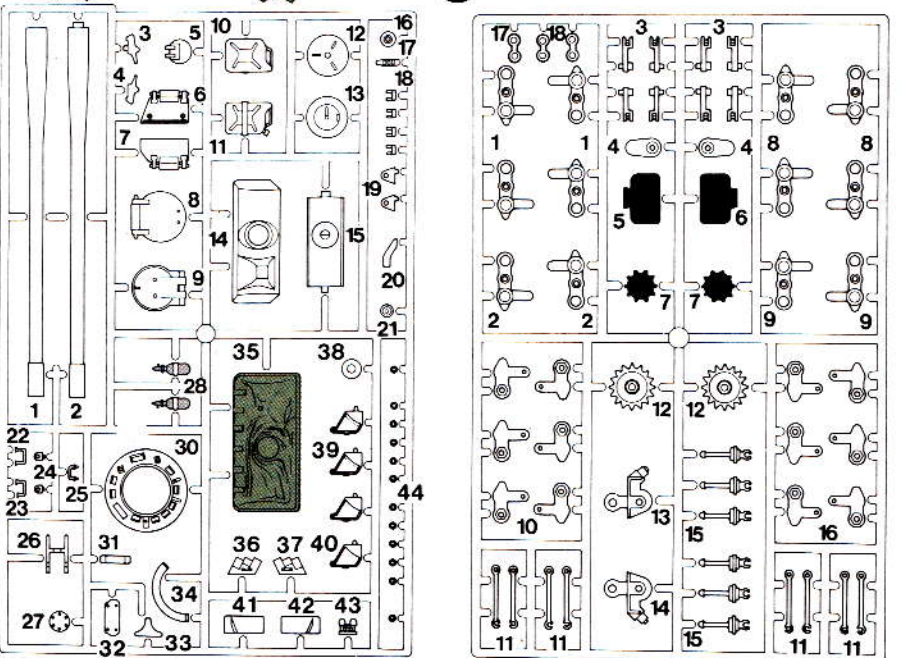
1. 砲身 A
2. 砲身 B
3. キュボラ部品 A
4. キュボラ部品 B
5. 弾丸用ハッチ
6. ローターズハッチ A
7. ローターズハッチ B
8. コマンダースハッチ
9. エスケープハッチ
10. ウォータータンク A
11. ウォータータンク B
12. リールケーブル A
13. リールケーブル B
14. ガンシールド
15. ガンドラム
16. リールケーブルホルダー
17. 機銃
18. ローターズハッチヒンジ
19. タレットフック
20. キュボラレール A
21. アンテナホルダー
22. 砲塔用すり A
23. 砲塔用すり B
24. コマンダースハッチ用ヒンジ
25. コマンダースハッチヒンジ
26. 補助キャタピラホルダー
27. ベンチレーター
28. 消火器

C 部品

フラット イングニアレッド レッドブラウン

D 部品

5, 6, 7は不要部品です



D 部品

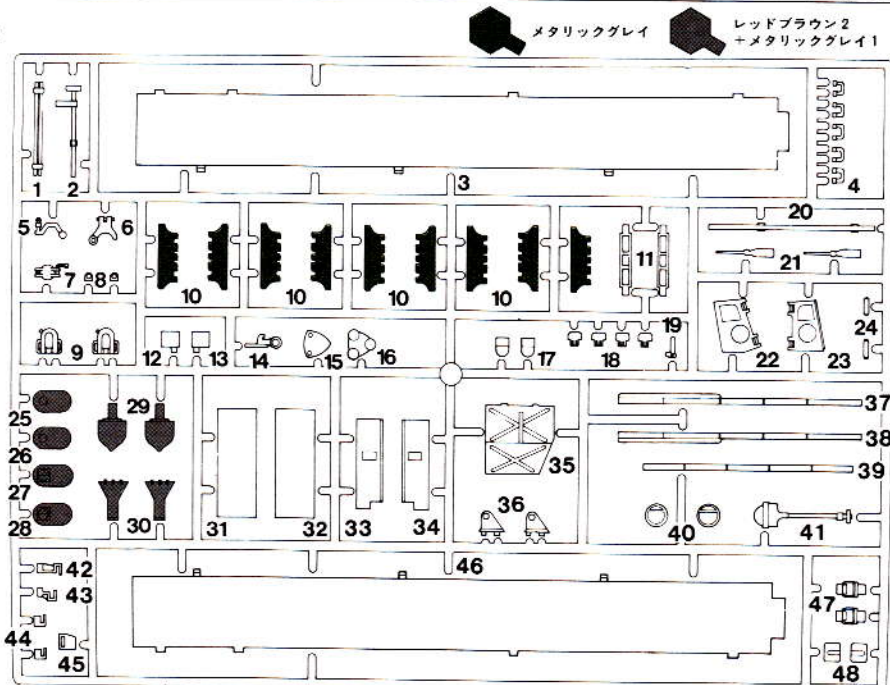
1. ロードホイールシャフト A
2. ロードホイールシャフト B
3. アーム A
4. アイドラーホイール用シャフト
5. コネクター A
6. コネクター B
7. ギヤー A
8. ロードホイール用シャフト C
9. ロードホイール用シャフト D
10. ロードホイール用シャフト E
11. アーム B
12. ギヤー B
13. アイドラーホイールシャフトカバー 左
14. アイドラーホイールシャフトカバー 右
15. コイルスプリング部品 C
16. ロードホイール用シャフト F
17. リンク A
18. リンク B

PARTS

E 部品

1. バー A
2. ハンマー
3. フェンダー 左
4. 手すり
5. ガントラベルロック A
6. ガントラベルロック B
7. ガソリン注入用ハッチ
8. ガントラベルロック用ヒンジ
9. ワイヤロープストッパー
10. 補助キャタピラ
11. 補助キャタピラホルダー
12. ガイド 左
13. ガイド 右
14. ワイヤロープホルダー A
15. ワイヤロープホルダー B
16. ワイヤロープホルダー C
17. 前照燈
18. ドライバースハッチ用ヒンジ
19. ハンドル
20. バー B
21. つるはし
22. ドライバースハッチ A
23. ドライバースハッチ B
24. ストッパー
25. エキゾースト部品 A左
26. エキゾースト部品 A右
27. エキゾースト部品 B左
28. エキゾースト部品 B右
29. エキゾースト部品 C
30. マフラー
31. エキゾースト部品 D左
32. エキゾースト部品 D右
33. エキゾースト部品 E右
34. エキゾースト部品 E左
35. 工具箱
36. リヤパネルフック
37. エンジンカバーガイド A
38. エンジンカバーガイド B
39. エンジンカバーガイド C
40. ドライバー用ベリスコープ A
41. スコップ
42. ワイヤロープホルダー A
43. ワイヤロープホルダー B
44. ワイヤロープホルダー C
45. 取手
46. フェンダー 右
47. ドライバー用ベリスコープ B
48. フロントカバー

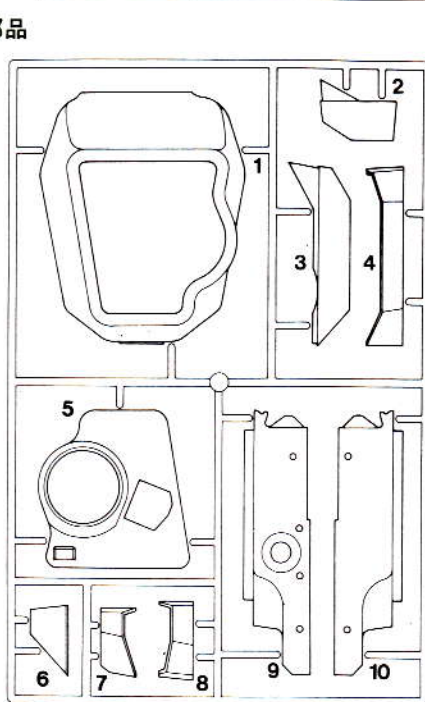
E 部品



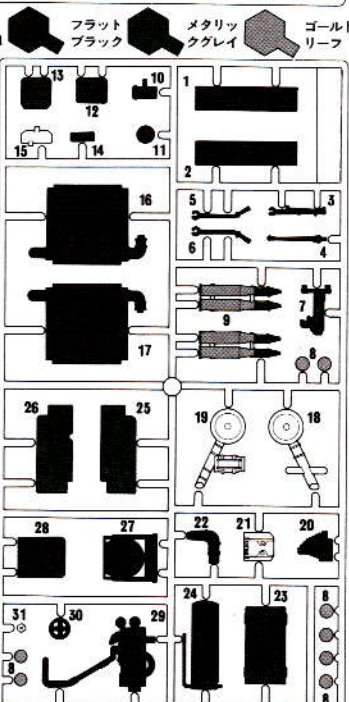
F 部品

F 部品

1. 砲塔上面 A
2. 道具箱A ふた
3. 道具箱B ふた
4. 道具箱B 本体
5. 砲塔上面 B
6. 道具箱C ふた
7. 道具箱C 本体
8. 道具箱A 本体
9. 砲塔 左
10. 砲塔 右



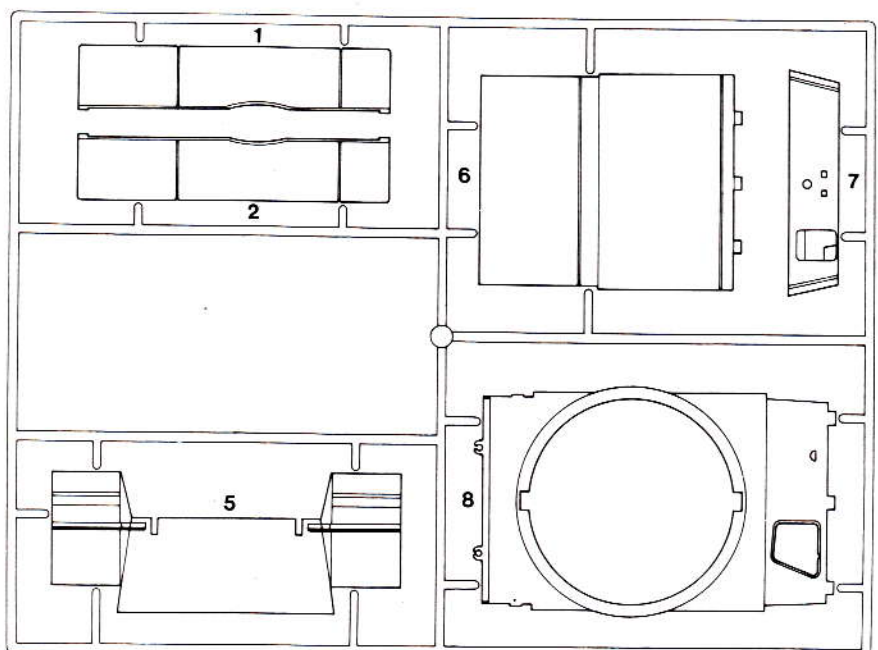
L 部品



H 部品

L 部品

1. シリンダーヘッド左
2. シリンダーヘッド右
3. ハンドブレーキ
4. ギヤレバー
5. ステアリングレバー左
6. ステアリングレバー右
7. B E S A7.92mm機械後部
8. 素莖
9. 20ボンド砲弾
10. エアクリナーカバー
11. スターターモーター
12. コマンドーズシート
13. ガンナーズシート
14. ガンナーズシート背あて
15. ガンナーズシート受板基部
16. ラジエーター右
17. ラジエーター左
18. エアクリナー右
19. エアクリナー左
20. 砲身上下用ギヤ
21. ガンナーズシート受板
22. 冷却水バイブ
23. 飲料水タンク
24. オイルクーラー
25. スターターエンジン左
26. スターターエンジン右
27. オペレーターズシート
28. ドライバースシート
29. スターターエンジン上板
30. 砲身上下用ハンドル
31. 砲身上下用ピニオンギヤ



H 部品

1. 工具箱 右
2. 工具箱 左
5. 前面装甲板
6. エンジン部カバー
7. リヤパネル
8. 砲撃室カバー

PARTS

J 部品

- 砲塔リング
- ターンテーブル
- 飲料水タンク受板
- エンジン部品
- 戦闘室前板
- ランエター受板
- 戦闘室床板
- 戦闘室後板
- ファン部支持板
- 操縦室側板

K 部品

- 砲塔内部部品 A
- 冷却水パイプ
- 砲塔内部部品 B
- 砲塔内部部品 C
- マップケース
- 砲塔内部部品 D
- ドライバースシート底板
- ペリスコープ A
- ペリスコープ B
- エキゾストパイプ
- キューボラ裏板
- 操縦室部品
- 空栗栗排出箱
- ドライバースメーターパネル
- 機関銃弾薬箱
- 通信装置用台座
- 通信装置
- ターンテーブルステア A
- ターンテーブルステア B
- カラ栗栗排出箱背板
- 砲身上下用ギヤボックス
- 20ポンド砲弾ケース A 側板
- ターンテーブル取付部品
- 砲塔内部収納箱 A
- 砲塔内部収納箱 B
- 20ポンド砲弾ケース A
- ガンナーズステップ
- 砲塔内部部品 E
- 20ポンド砲弾ケース B
- 20ポンド砲弾ケース背板
- コマンドーズシート支柱
- 砲塔内部収納箱
- ヘッダータンクカバー
- コマンドーズステップ
- CO₂ボンベ A
- CO₂ボンベ B
- 砲塔内部部品 F
- 砲塔旋回用ギヤボックス底板
- 砲塔旋回用ギヤボックス下
- 砲塔旋回用ギヤボックス上
- エンジン部品側板
- エアクリナーカバー
- 砲身部品下
- ドライバーススイッチボード
- カートリッジケースディフレクター右
- カートリッジケースディフレクター左
- 装填部上
- 装填部下
- 砲身部品上
- コマンドーズシート背板
- 装填部前
52. ガンドラム後板
- キューボラ旋回ハンドル
- 砲塔内部部品 G
- ガンナーズシート支柱
- 砲身上下用ハンドル主軸
- 砲塔旋回ハンドル

G 部品

- ワイヤーロープ
- ドライブプロケットポリキャップ
- サポートローラーポリキャップ
- ロードホイールポリキャップ
- リールケーブルシャフト
- アイドラーホイールポリキャップ

TAMIYA COLOR

タミヤカラー(エナメル塗料)

筆塗り塗装にぴったり。のびが良く筆ムラ、泡立ちもほとんどなし。つやの良さもエナメル塗料ならではの。もちろんスプレー塗装もOK。

TAMIYA COLOR

タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレータイプの塗料です。ミリタリーモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社カスタマーサービスまでご連絡ください。

〒422-8610
株式会社タミヤ カスタマーサービス

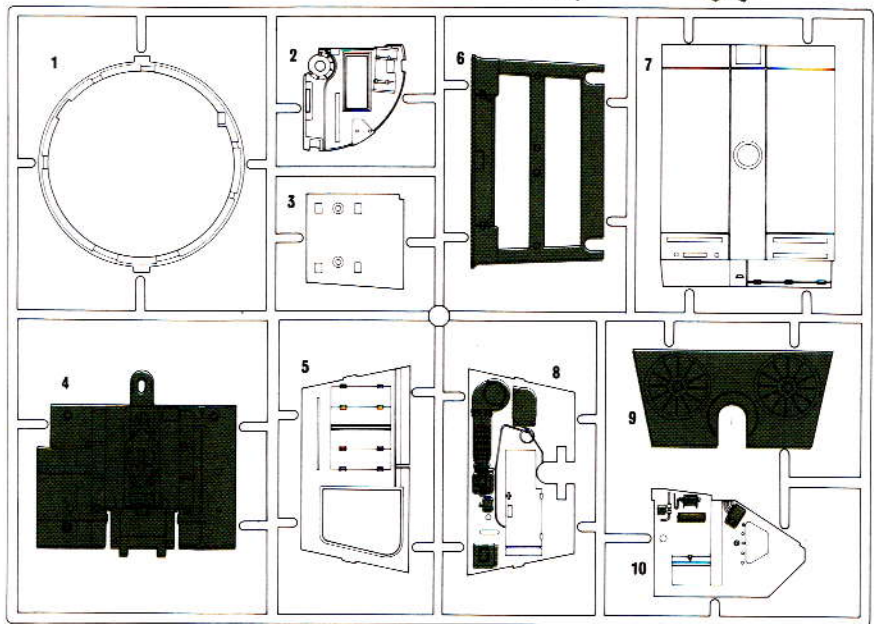
《お問い合わせ番号》
静岡 054-283-0003
東京 03-3899-3765(静岡に自動転送)

●タミヤのホームページには豊富な情報が満載です。ぜひご覧ください。

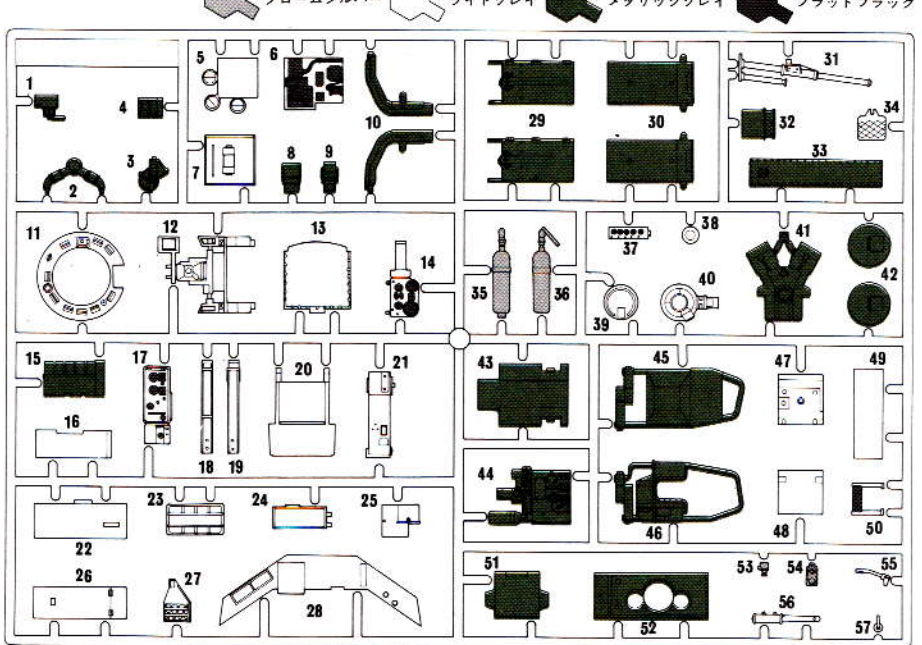
www.tamiya.com



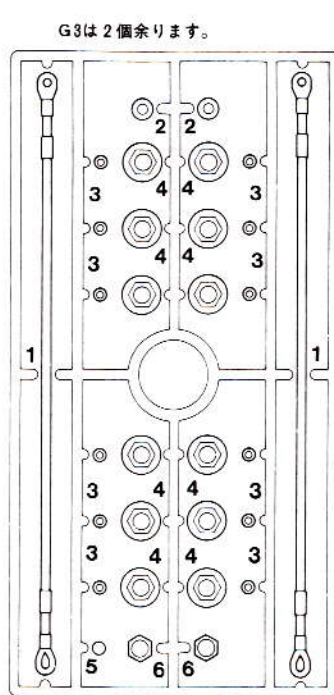
J 部品



K 部品



G 部品



M 部品

